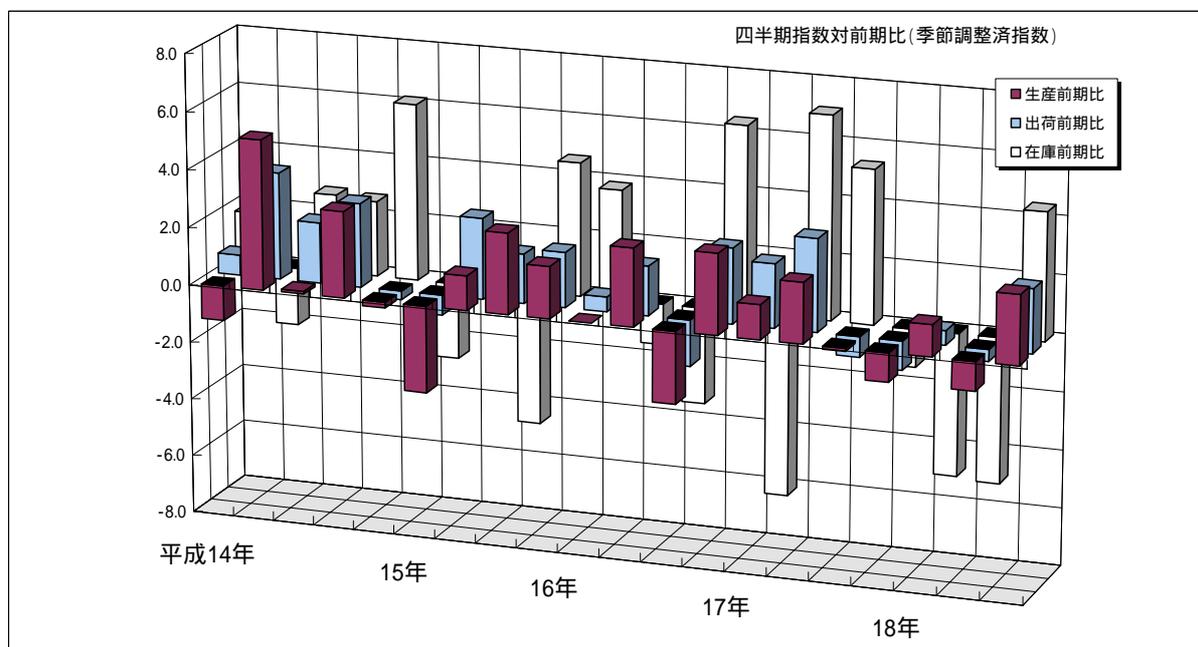


平成18年

# 福島県鉱工業指数年報

(平成12年基準)



うつくしま、ふくしま。

 福島県

企画調整部情報統計領域

# は し が き

福島県では、県内鋳工業の生産、出荷及び在庫の動向を把握するための基礎資料として毎月、『福島県鋳工業指数月報』を作成し公表しておりますが、このたび、平成18年の動向を『平成18年福島県鋳工業指数年報』として取りまとめました。

平成18年の鋳工業生産指数は104.8（前年比1.4％）と4年連続の上昇、鋳工業出荷指数は111.5（同1.5％）と5年連続の上昇、鋳工業在庫指数は130.0（同0.8％）と7年ぶりの低下となりました。

本書が本県の鋳工業生産活動の解明や地域分析のための資料として、広く御活用いただければ幸いです。

終わりに、本指数の作成に当たりまして御協力をいただいております事業所及び関係機関の方々に厚くお礼申し上げますとともに、今後とも一層の御協力をお願いいたします。

平成19年10月

福島県企画調整部長

# 目 次

福島県鉱工業指数の概要 .....	1
利用上の注意 .....	5
平成18年福島県鉱工業指数の動向	
1 鉱工業の動向	
(1) 概況 .....	6
(2) 業種別の動向 .....	13
(3) 財別の動向 .....	32
2 電力・ガス事業の推移 .....	38
統計表	
1 原指数	
第1表 業種別生産指数 .....	40
第2表 業種別出荷指数 .....	42
第3表 業種別在庫指数 .....	44
第4表 財別生産指数 .....	46
第5表 財別出荷指数 .....	47
第6表 財別在庫指数 .....	48
2 季節調整済指数	
第7表 業種別生産指数 .....	50
第8表 業種別出荷指数 .....	52
第9表 業種別在庫指数 .....	54
第10表 財別生産指数 .....	56
第11表 財別出荷指数 .....	57
第12表 財別在庫指数 .....	58
別表	
平成12年基準指数採用品目及びウエイト .....	60



(2) 特殊分類 (財別分類)

特殊分類は、品目の経済的用途によって財別に分類したものである。各財格付けの定義は表1のとおりである。

表1 特殊分類の定義

特殊分類 (財別分類)	定義
最終需要財	鉱工業又は他の産業に原材料として投入されない製品。ただし、建設財を含み、企業消費財を除く
投資財	資本財と建設財の合計
資本財	家計以外で購入される製品で、原則として想定耐用年数が1年以上で比較的購入単価が高いもの
建設財	建設工事用の資材及び建築物に対する内装品並びに土木工事用の資材
消費財	家計で購入される製品 (耐久消費財と非耐久消費財の合計)
耐久消費財	原則として想定耐用年数が1年以上で、比較的購入単価が高いもの
非耐久消費財	原則として想定耐用年数が1年未満又は比較的購入単価が低いもの
生産財	鉱工業及び他の産業に原材料等として投入される製品。ただし、企業消費財を含み、建設財を除く
鉱工業用生産財	鉱工業の生産工程に原材料、燃料、部品、容器、消耗品及び工具等として再投入される製品
その他用生産財	非鉱工業用の原材料、燃料、容器、消耗品及び企業消費財等

4 採用品目

経済産業省生産動態統計調査 (福島県分) 及び福島県鉱工業指数調査から業種・特殊分類ごとに代表性を考慮して選定した。

採用品目数は、生産指数及び出荷指数が227品目、在庫指数は138品目である。

(表2参照)

また、採用品目の名称及び単位は別表 (P60~63) のとおりである。

表2 業種別品目数

業種分類	指数分類	生産指数 (付加価値額)	出荷指数 (出荷額)	在庫指数 (在庫額)
鉱工業		227	227	138
製造工業		223	223	135
鉄鋼業		9	9	5
非鉄金属工業		10	10	6
金属製品工業		9	9	4
一般機械工業		22	22	9
電気機械工業		17	17	9
情報通信機械工業		13	13	5
電子部品・デバイス工業		13	13	6
輸送機械工業		10	10	3
精密機械工業		8	8	4
窯業・土石製品工業		18	18	17
化学工業		27	27	22
プラスチック製品工業		7	7	6
パルプ・紙・紙加工品工業		8	8	6
繊維工業		10	10	10
食料品・たばこ工業		25	25	11
その他工業		17	17	12
ゴム、皮革製品工業		6	6	4
木材・木製品工業		3	3	3
その他製品工業		8	8	5
鉱業		4	4	3
(参考)				
産業総合		230	230	138
電力・ガス事業		2	2	0
新聞・出版業		1	1	0
鉱工業 (除く印刷物)		226	226	0
機械工業		83	83	36
旧電気機械工業		43	43	20

表3 財別品目数

特殊分類	指数分類	生産指数 (付加価値額)	出荷指数 (出荷額)	在庫指数 (在庫額)
鉱工業		242	242	149
最終需要財		117	117	66
投資財		59	59	33
資本財		32	32	11
建設財		27	27	22
消費財		58	58	33
耐久消費財		16	16	9
非耐久消費財		42	42	24
生産財		125	125	83
鉱工業用生産財		116	116	78
その他用生産財		9	9	5

( ) 複数の財にウエイトを分割している品目があるため、業種別の計と一致しない。

## 5 ウェイト

ウェイトは、個々の品目の鉱工業全体に占める重要度のことで、多数の品目の生産数量、出荷数量、在庫数量の変化を総合的に比較するために必要な要素である。

生産指数は付加価値額ウェイト、出荷指数は出荷額ウェイト、在庫指数は年平均在庫額ウェイトであり、指数全体を10000.0として採用品目ごとに万分比で示している。

算定の基礎資料は、製造工業については『平成12年工業統計調査(福島県)』、鉱業については『本邦鉱業のすう勢調査(経済産業省)』及び『経済産業省生産動態統計調査(福島県分)』を用いた。

業種別、財別のウェイトは表4、5のとおりである。

また、採用品目のウェイト及び財別格付けは別表(P60~63)のとおりである。

表4 業種別生産、出荷、在庫ウェイト

業種分類	指数分類	生産指数 (付加価値額)	出荷指数 (出荷額)	在庫指数 (在庫額)
鉱工業		10000.0	10000.0	10000.0
製造工業		9974.5	9985.9	9997.5
鉄鋼業		100.1	103.2	80.0
非鉄金属工業		228.9	248.6	176.6
金属製品工業		458.9	421.6	340.5
一般機械工業		615.1	512.3	411.7
電気機械工業		530.9	703.2	620.0
情報通信機械工業		1314.0	1680.6	1748.6
電子部品・デバイス工業		1039.4	1200.6	608.4
輸送機械工業		538.2	581.3	235.5
精密機械工業		300.1	262.2	179.3
窯業・土石製品工業		472.5	400.1	756.5
化学工業		1250.5	873.3	1729.4
プラスチック製品工業		419.7	373.8	443.2
パルプ・紙・紙加工品工業		205.3	247.9	265.8
繊維工業		265.9	180.8	151.8
食料品・たばこ工業		1490.0	1521.6	1680.8
その他工業		745.0	674.8	569.4
ゴム、皮革製品工業		270.0	245.9	172.3
木材・木製品工業		128.7	125.9	165.8
その他製品工業		346.3	303.0	231.3
鉱業 (参考)		25.5	14.1	2.5
産業総合		14415.9	13826.1	10000.0
電力・ガス事業		4356.5	3803.2	-
新聞・出版業		59.4	22.9	-
鉱工業(除く印刷物)		9852.0	9883.0	10000.0
機械工業		4337.7	4940.2	3803.5
旧電気機械工業		2884.3	3584.4	2977.0

表5 財別生産、出荷、在庫ウェイト

特殊分類	指数分類	生産指数 (付加価値額)	出荷指数	在庫指数
鉱工業		10000.0	10000.0	10000.0
最終需要財		5098.4	5269.5	4859.8
投資財		1724.7	1905.7	1595.4
資本財		974.3	1230.0	593.5
建設財		750.4	675.7	1001.9
消費財		3373.7	3363.8	3264.4
耐久消費財		910.0	990.4	1299.2
非耐久消費財		2463.7	2373.4	1965.2
生産財		4901.6	4730.5	5140.2
鉱工業用生産財		4750.5	4608.1	4736.1
その他用生産財		151.1	122.4	404.1

## 6 寄与度

寄与度とは、総合指数の上昇または低下の増減分に対して、内訳分類の増減分がどれだけになっているかを示したものである。

$$\left[ \text{寄与度} = \frac{\text{各業種(財)指数のポイント差} \times \text{各業種(財)のウェイト}}{\text{総合指数} \times \text{総合のウェイト}} \times 100 \right]$$

## 7 指数の算式

総合指数（複数系列（複数業種・各業種）合併）の算式は、個別系列を基準時の固定ウェイトで加重平均するラスパイレス算式であり、次の式で表される。

$$\text{総合指数} = \frac{\left[ \frac{\text{品目別比較時数量}}{\text{品目別基準時数量}} \times \text{品目別基準時(平成12年)ウェイト} \right] \text{の総和}}{\text{品目別基準時(平成12年)ウェイトの総和}} \times 100$$

## 8 季節調整

指数の時系列は、長期的傾向、景気循環などの変動要因を含んでいるが、季節的要因（四季の変動から成る自然要因、盆・正月などの社会的習慣、決算期などの商習慣等の社会的要因）の影響を受けて、毎年一定の変動を繰り返している。季節調整法とは、季節的な変動要因を原指数から取り除く方法である。

### （1）季節調整の方法

季節調整法は、米国センサス局の X-12-ARIMA を採用し、平成12年1月から平成18年12月までの84時点の時系列データにより季節指数を算出している。

### （2）季節調整済指数の算出

季節調整済指数の算出は、次の式による。なお、原指数とは指数作成用データをそのまま指数化したものである。

$$\left[ \text{季節調整済指数} = \frac{\text{原指数}}{\text{季節指数}} \times 100 \right]$$

季節調整済指数は主に短期的動向（前月との比較や、四半期別の前期との比較）をみるのに利用し、原指数は主に長期的動向（前年との比較や、四半期別の前年同期との比較）をみるのに利用する。

## 利用上の注意

本書は、経済産業省生産動態統計調査及び福島県鉱工業指数調査等の結果に基づき、平成18年の鉱工業指数を集録したものです。

1 鉱工業指数とは、経済産業省及び本県の指定する品目の、毎月の生産・出荷・在庫の数量等を把握し、鉱工業生産活動を指数化して示したものである。

2 本書に掲載した基準時及びウェイトの時期はともに平成12年である。なお、基準年は5年ごとに改訂され、過去にさかのぼってすべての指数が改訂されている。

3 指数値は、暦年、四半期及び月別に計算している。なお、四半期別の 期は1～3月期、 期は4～6月期、 期は7～9月期、 期は10～12月期である。

4 統計表中の符号等の用法は、次のとおりである。

[ ] ..... 該当数値なし

[ ] ..... マイナスの数値

5 表示されている単位未満は、四捨五入している。そのため、総数と内訳の計が一致しない場合がある。

6

(1) 前年比、前期比及び前年同期比は、対前年上昇率、対前期上昇率、対前年同期上昇率を意味する。

(2) 前年比と前年同期比は原指数により算出し、前期比は季節調整済指数により算出している。

7 財別採用品目数は、1品目を2財に分割している品目があるので、業種別採用品目数とは一致しない。

## 平成 18 年福島県鋳工業指数の動向

### 1 鋳工業の動向

#### (1) 概況

##### ア 推移

平成 18 年の生産指数（原指数年平均）は、104.8 で前年比 1.4%、出荷指数は 111.5 で同 1.5%とそれぞれ上昇し、在庫指数は 130.0 で同 0.8%と低下した（表 1）。

生産指数は 4 年連続、出荷指数は 5 年連続でそれぞれ上昇し、在庫指数は 7 年ぶりに低下した。

表1 鋳工業指数の年別推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
生産	93.0	95.0	99.5	103.4	104.8
前年比(%)	1.0	2.2	4.7	3.9	1.4
出荷	94.3	99.1	104.5	109.9	111.5
前年比(%)	0.3	5.1	5.4	5.2	1.5
在庫	117.6	124.4	126.9	131.1	130.0
前年比(%)	0.3	5.8	2.0	3.3	0.8

#### < 四半期別指数 >

四半期別前期比（季節調整済指数）の推移をみると、生産指数及び出荷指数は、平成 17 年 1 期に引き続き 2 期に低下し、3 期に上昇し、4 期に低下し、1 期に上昇した。在庫は、1 期に 3 期ぶりに低下し、2 期連続で低下を続け、3 期に上昇した（表 2）。

また、四半期別前年同期比（原指数）をみると、生産指数及び出荷指数は平成 14 年 1 期から 16 期連続で上昇を続けていたが、平成 18 年 1 期に低下し、2 期に上昇した。在庫指数は、平成 17 年 1 期から 4 期連続で上昇を続けていたが、平成 18 年 1 期、2 期に低下した（表 3）。

表2 鋳工業指数四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成16年				平成17年				平成18年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	98.6	98.6	101.3	98.8	101.6	102.8	105.0	104.9	103.9	105.0	103.9	106.4
前期比(%)	1.8	0.0	2.7	2.5	2.8	1.2	2.1	0.1	1.0	1.1	1.0	2.4
出荷	103.5	104.0	105.8	104.1	106.8	109.1	112.6	111.8	110.7	111.2	110.7	113.1
前期比(%)	1.9	0.5	1.7	1.6	2.6	2.2	3.2	0.7	1.0	0.5	0.4	2.2
在庫	124.9	129.6	127.8	123.6	131.5	123.3	131.9	138.9	137.1	130.4	123.9	129.3
前期比(%)	4.6	3.8	1.4	3.3	6.4	6.2	7.0	5.3	1.3	4.9	5.0	4.4

図1 鋳工業指数年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)

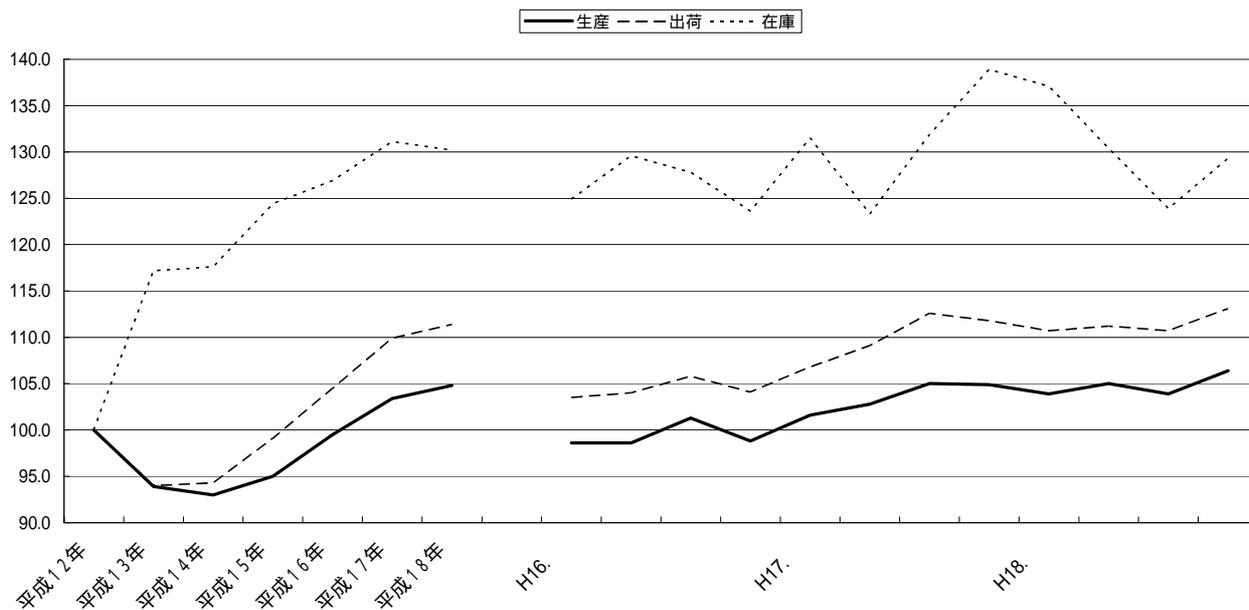
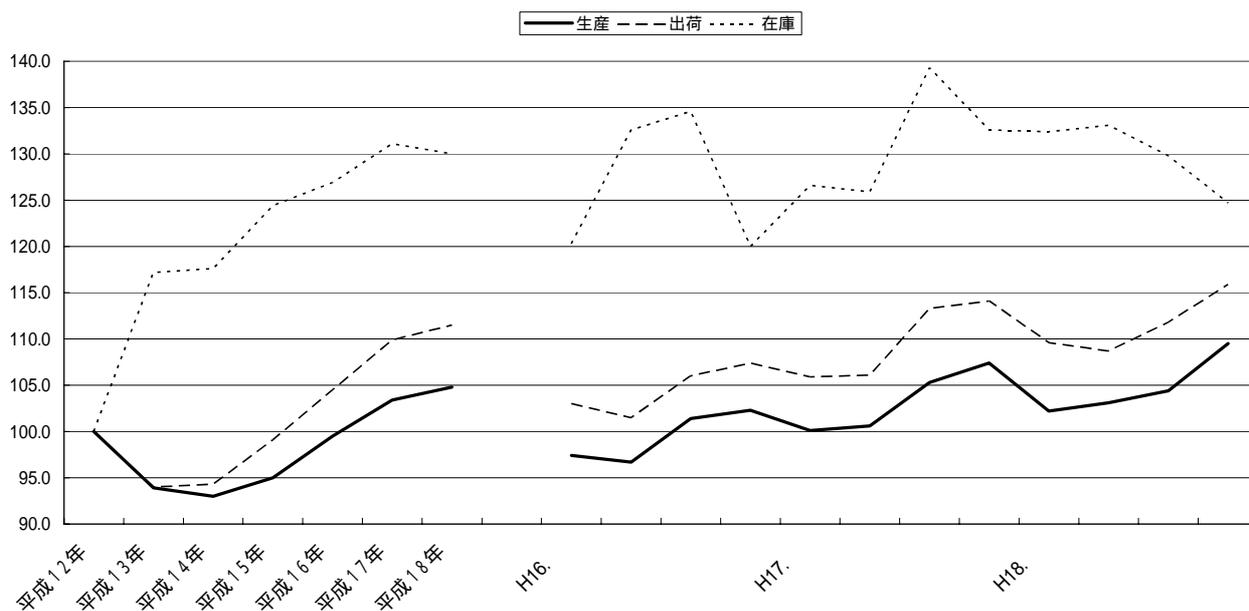


表3 鋳工業指数四半期別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成16年				平成17年				平成18年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	97.4	96.7	101.4	102.3	100.1	100.6	105.3	107.4	102.2	103.1	104.3	109.4
前年同期比(%)	4.8	4.4	7.2	2.3	2.8	4.0	3.8	5.0	2.1	2.5	0.9	1.9
出荷	103.0	101.5	106.0	107.4	105.9	106.1	113.3	114.1	109.6	108.7	111.8	115.9
前年同期比(%)	8.0	5.6	6.2	2.2	2.8	4.5	6.9	6.2	3.5	2.5	1.3	1.6
在庫	120.3	132.6	134.6	120.0	126.6	125.9	139.3	132.6	132.4	133.1	129.8	124.7
前年同期比(%)	1.2	3.6	3.0	2.6	5.2	5.1	3.5	10.5	4.6	5.7	6.8	6.0

図2 鋳工業指数年別(原指数)・四半期別(原指数)指数の推移(平成12年=100.0)

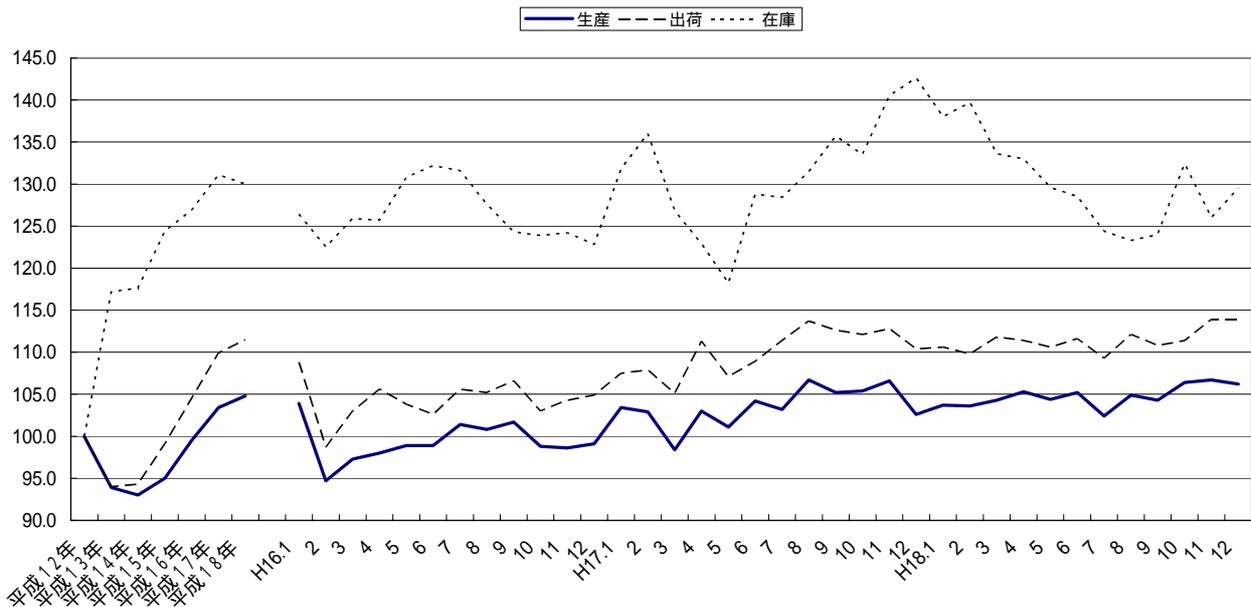


月別推移については表4のとおり。

表4 鋳工業指数の月別推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成16年	生産	103.9	94.7	97.3	98.0	98.9	98.9	101.4	100.8	101.7	98.8	98.6	99.1
	出荷	108.8	98.7	103.0	105.6	103.8	102.6	105.6	105.2	106.6	103.0	104.3	104.9
	在庫	126.4	122.5	125.9	125.7	130.8	132.2	131.6	127.6	124.3	123.9	124.2	122.8
平成17年	生産	103.4	102.9	98.4	103.0	101.1	104.2	103.2	106.7	105.2	105.4	106.6	102.6
	出荷	107.5	107.9	105.1	111.3	107.1	108.9	111.4	113.7	112.6	112.1	112.8	110.4
	在庫	131.8	136.0	126.8	122.9	118.2	128.8	128.4	131.5	135.7	133.5	140.5	142.6
平成18年	生産	103.7	103.6	104.3	105.3	104.4	105.2	102.4	104.9	104.3	106.4	106.7	106.2
	出荷	110.6	109.8	111.8	111.4	110.6	111.6	109.3	112.1	110.8	111.4	113.9	113.9
	在庫	138.0	139.7	133.6	133.0	129.6	128.5	124.4	123.3	124.0	132.4	126.0	129.5

図3 鋳工業指数年別(原指数)・月別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



## イ 業種別概況

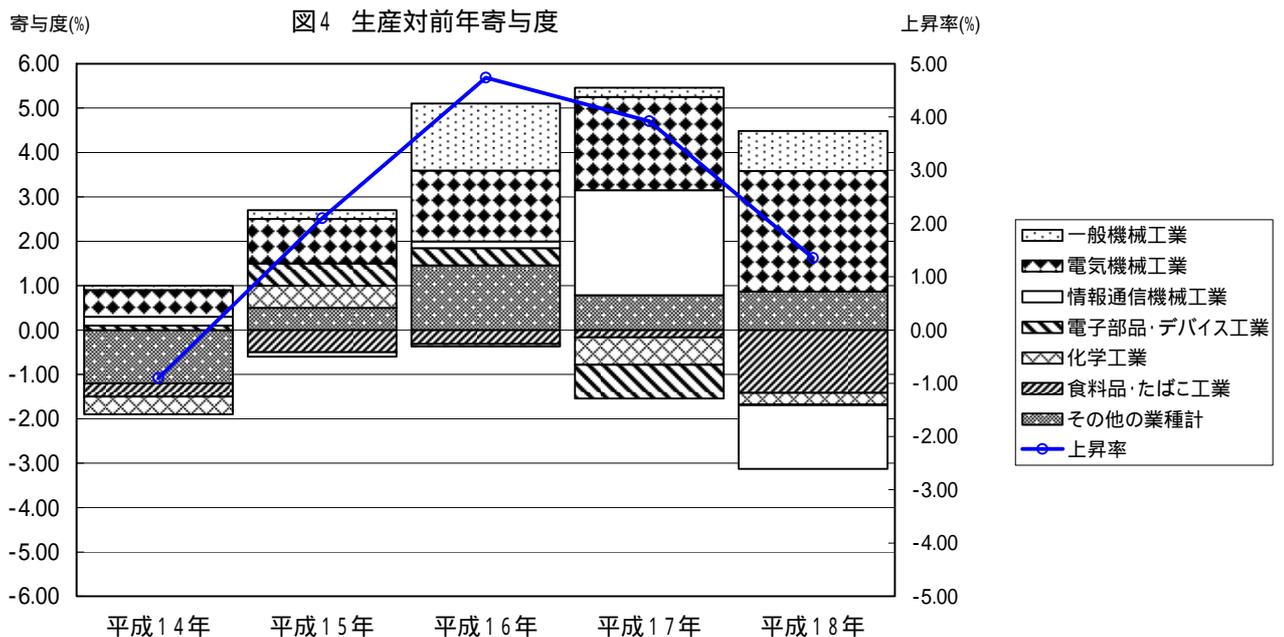
### <生産>

生産指数(原指数年平均)では、電気機械工業が前年比30.6%、精密機械工業が同14.0%、一般機械工業が同12.9%、金属製品工業が同12.3%など7業種で上昇した。一方、食料品・たばこ工業が前年比10.7%、情報通信機械工業が同10.5%、木材・木製品工業が同7.8%、繊維工業が同5.2%など12業種で低下したものの、全体として1.4%上昇した(表5)。

生産の上昇に寄与した業種は、電気機械工業、一般機械工業等であった。

表5 業種別年別生産寄与度及び原指数の対前年上昇率

業種	寄与度					18年原指数上昇率
	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	
鉱工業	1.0	2.2	4.7	3.9	1.4	1.4
製造工業	1.0	2.2	4.7	3.9	1.4	1.5
鉄鋼業	0.0	0.3	0.1	0.0	0.0	0.7
非鉄金属工業	0.0	0.1	0.1	0.1	0.2	8.9
金属製品工業	1.1	0.3	0.4	0.4	0.5	12.3
一般機械工業	0.1	0.2	1.5	0.2	0.9	12.9
電気機械工業	0.6	1.0	1.6	2.1	2.7	30.6
情報通信機械工業	0.2	0.1	0.2	2.4	1.4	10.5
電子部品・デバイス工業	0.1	0.5	0.4	0.8	0.0	0.2
輸送機械工業	0.0	0.1	0.6	0.2	0.1	1.3
精密機械工業	0.4	0.2	0.2	0.1	0.3	14.0
窯業・土石製品工業	0.2	0.1	0.1	0.1	0.0	1.0
化学工業	0.4	0.5	0.1	0.6	0.3	2.4
プラスチック製品工業	0.4	0.1	0.4	0.2	0.2	3.8
パルプ・紙・紙加工品工業	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0	1.1
繊維工業	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	5.2
食料品・たばこ工業	0.3	0.5	0.3	0.2	1.4	10.7
その他工業	0.1	0.0	0.0	0.1	0.1	1.5
ゴム、皮革製品工業	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.9
木材・木製品工業	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	7.8
その他製品工業	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.5
鉱業	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	15.2

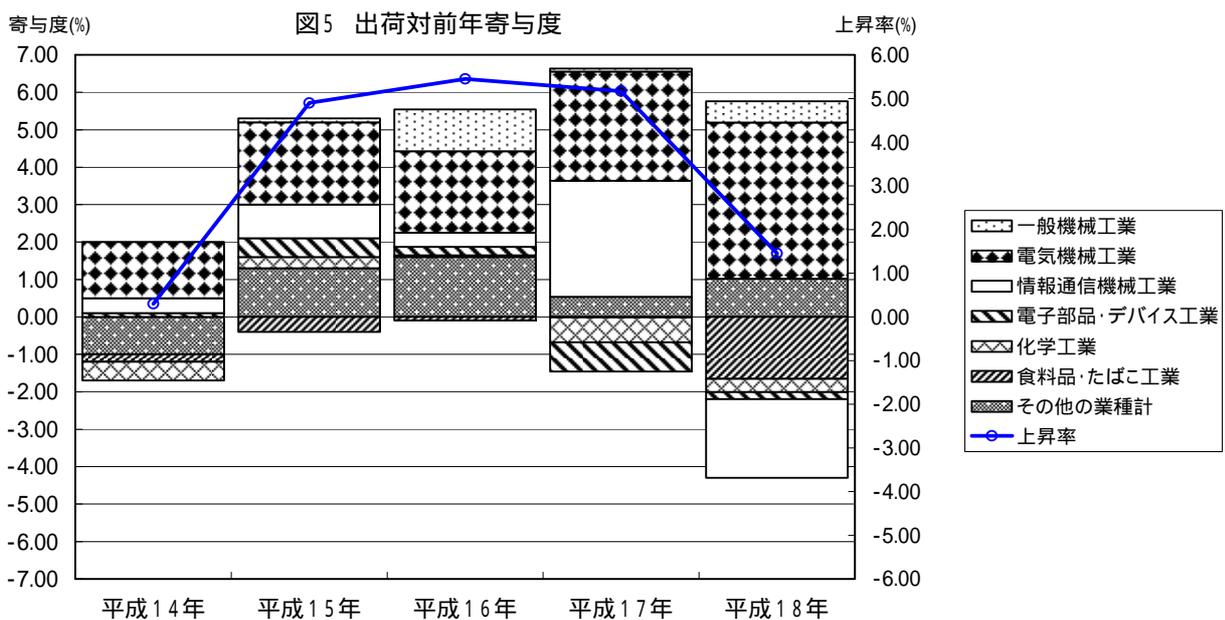


< 出荷 >

出荷指数(原指数年平均)では、電気機械工業が前年比 31.9%、精密機械工業が同 15.6%、金属製品工業が同 13.4%、一般機械工業が同 10.7%など 8 業種で上昇した。一方、食料品・たばこ工業が前年比 12.2%、情報通信機械工業が同 11.1%、木材・木製品工業が同 8.1%、繊維工業が同 5.5%など 11 業種で低下したものの、全体として 1.5%上昇した(表 6)。出荷の上昇に寄与した業種は、電気機械工業、一般機械工業等であった。

表 6 業種別年別出荷寄与度及び原指数の対前年上昇率

業種	寄与度					18年原指数上昇率
	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	
鉱工業	0.3	5.1	5.4	5.2	1.5	1.5
製造工業	0.3	5.1	5.4	5.2	1.5	1.5
鉄鋼業	0.0	0.3	0.5	0.0	0.0	0.8
非鉄金属工業	0.0	0.0	0.2	0.1	0.2	9.1
金属製品工業	1.1	0.3	0.4	0.3	0.4	13.4
一般機械工業	0.0	0.1	1.1	0.1	0.6	10.7
電気機械工業	1.5	2.2	2.2	2.9	4.2	31.9
情報通信機械工業	0.4	0.9	0.4	3.1	2.1	11.1
電子部品・デバイス工業	0.1	0.5	0.2	0.8	0.2	2.0
輸送機械工業	0.1	0.1	0.6	0.3	0.1	1.2
精密機械工業	0.2	0.1	0.4	0.1	0.3	15.6
窯業・土石製品工業	0.1	0.2	0.0	0.1	0.2	5.3
化学工業	0.5	0.3	0.0	0.7	0.4	5.0
プラスチック製品工業	0.3	0.4	0.3	0.1	0.2	3.8
パルプ・紙・紙加工工業	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0	1.6
繊維工業	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	5.5
食料品・たばこ工業	0.2	0.4	0.1	0.0	1.7	12.2
その他工業	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	1.2
ゴム、皮革製品工業	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.3
木材・木製品工業	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	8.1
その他製品工業	0.2	0.2	0.0	0.1	0.0	0.3
鉱業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.4



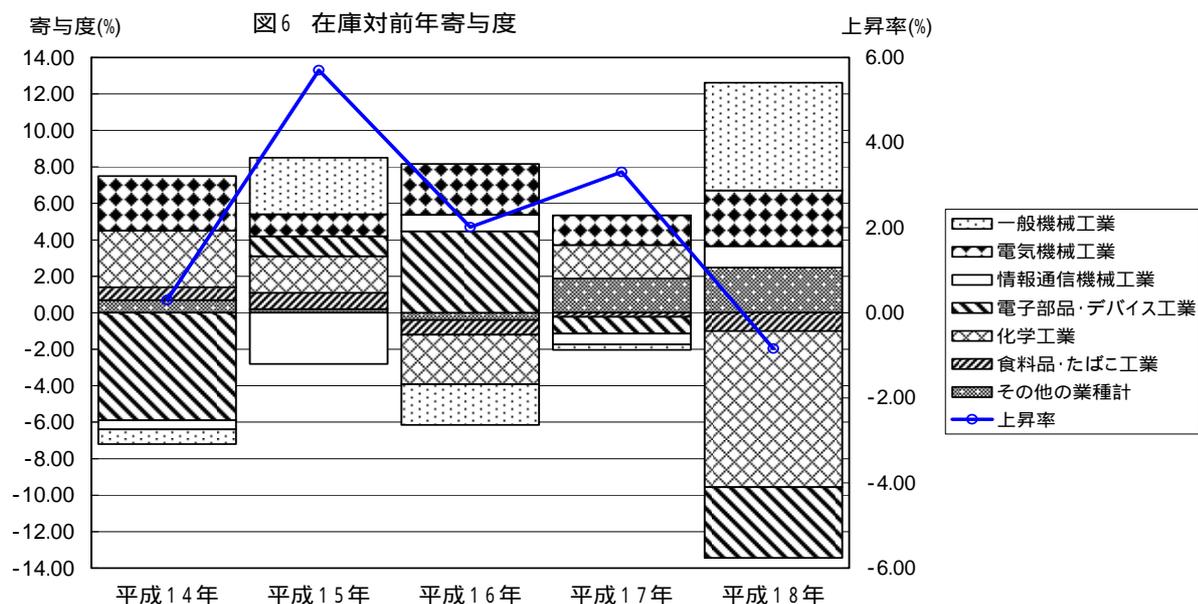
<在庫>

在庫指数（原指数年平均）では、化学工業が前年比 14.7%、電子部品・デバイス工業が同 10.9%、窯業・土石製品工業が同 7.0%、木材・木製品工業が同 3.0%など9業種で低下した。一方、一般機械工業が前年比70.6%、ゴム、皮革製品工業が同25.4%、鉄鋼業が同21.6%、輸送機械工業が同19.0%など9業種で上昇したものの、全体として0.8%低下した（表7）。

在庫の低下に寄与した業種は、化学工業、電子部品・デバイス工業等であった。

表7 業種別年別在庫寄与度及び原指数の対前年上昇率

業種	寄与度					18年原指数上昇率
	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	
鉱工業	0.3	5.8	2.0	3.3	0.8	0.8
製造工業	0.3	5.8	2.0	3.3	0.8	0.8
鉄鋼業	0.0	0.1	0.1	0.1	0.7	21.6
非鉄金属工業	0.2	0.0	0.2	0.2	0.7	8.9
金属製品工業	0.9	0.5	0.0	0.0	0.0	0.6
一般機械工業	0.8	3.1	2.2	0.3	5.9	70.6
電気機械工業	3.0	1.2	2.8	1.6	3.1	7.0
情報通信機械工業	0.5	2.8	0.9	0.6	1.2	2.9
電子部品・デバイス工業	5.9	1.1	4.5	0.9	3.9	10.9
輸送機械工業	1.1	0.4	0.2	1.4	1.8	19.0
精密機械工業	0.6	0.7	0.2	0.2	0.1	2.8
窯業・土石製品工業	0.1	0.7	1.8	0.7	1.4	7.0
化学工業	3.1	2.0	2.7	1.8	8.6	14.7
プラスチック製品工業	1.0	1.2	1.0	0.0	0.1	0.5
パルプ・紙・紙加工品工業	0.0	0.2	0.0	0.3	0.0	0.0
繊維工業	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	2.8
食料品・たばこ工業	0.7	0.9	0.8	0.2	1.0	2.0
その他工業	0.7	0.5	0.1	0.1	0.9	7.1
ゴム、皮革製品工業	0.1	0.3	0.0	0.1	1.0	25.4
木材・木製品工業	0.6	0.0	0.0	0.0	0.1	3.0
その他製品工業	0.0	0.2	0.1	0.0	0.1	2.1
鉱業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6

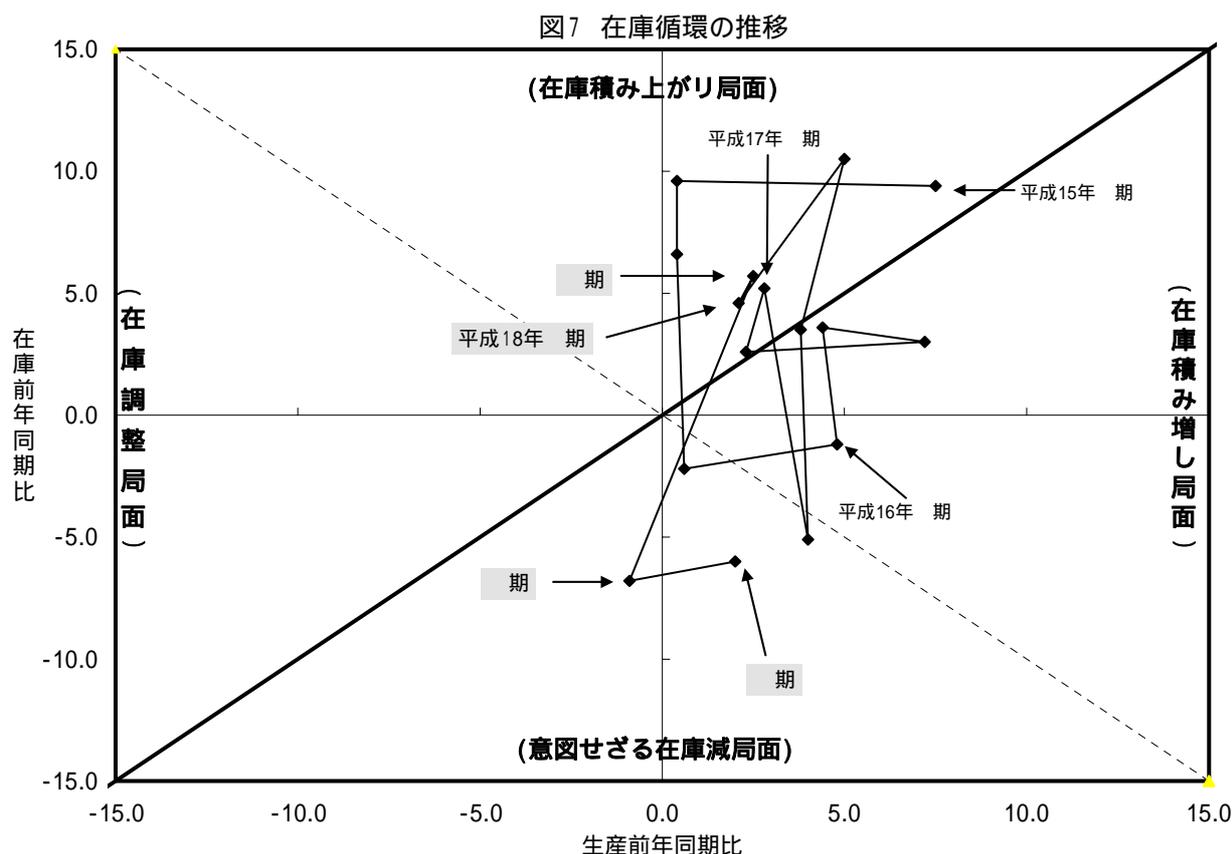


### ウ 在庫循環の推移

生産と在庫の関係を見ると、生産指数（原指数）は前年同期比で平成18年 期まで16期連続で前年同期を上回っていたが、 期に下回り、 期に回復した。

一方、在庫は前年同期比で平成18年 期までは4期連続で前年同期を上回ったものの、 期、 期に前年同期を下回った。

平成18年は生産は 期を除いては上昇しており、在庫は 期、 期に上昇し、 期、 期に低下したことから、在庫循環については前半は「在庫積み上がり局面」、年後半は「意図せざる在庫減局面」に位置した（図7）。



意図せざる在庫減局面 (景気拡大初期)	景気が回復し始め需要が増えると、最初は生産が追いつかないため、意図せず在庫が減少する。
在庫積み増し局面 (景気拡大期)	景気が拡大を続け、企業は将来の需要増を見込んで生産を増加させ、減少していた在庫も積み増される。
在庫積み上がり局面 (景気後退初期)	景気が減速し始め、企業の需要予測より実際の需要が下回ることになり、在庫が積み上がり始める。
在庫調整局面 (景気後退期)	需要低迷により積み上がった在庫を減らすため、企業は生産を縮小し、景気の停滞・後退が更に進む。

在庫循環図とは、景気動向を把握する上で、一定の目安となる図です。

生産指数の上昇率と在庫指数の上昇率を利用して、在庫循環の4局面を示したもので、左回りにグラフが推移する傾向があります。

(2) 業種別の動向

ア 鉄鋼業

平成18年の生産指数（原指数年平均）は、132.9 で前年比 0.7%低下、出荷指数は173.7で同0.8%、在庫指数は194.3で同21.6%それぞれ上昇した（表8）

生産指数は2年連続で低下し、出荷指数は4年連続、在庫指数は7年連続でそれぞれ上昇した。

<品目別>

品目別にみると、生産は、可鍛鋳鉄、鉄鋼品、普通鉄鋼管の3品目が上昇し、精密鋳造品、粗鋼、鋳鋼品など6品目が低下した。

出荷は、可鍛鋳鉄、鉄鋼品、普通鉄鋼管など4品目が上昇し、精密鋳造品、磨棒鋼・線類、粗鋼など5品目が低下した。

在庫は、鋳鋼品、特殊鋼鋼管、磨棒鋼・線類の3品目が上昇し、普通鋼鋼管、銑鉄鋳物の2品目が低下した。

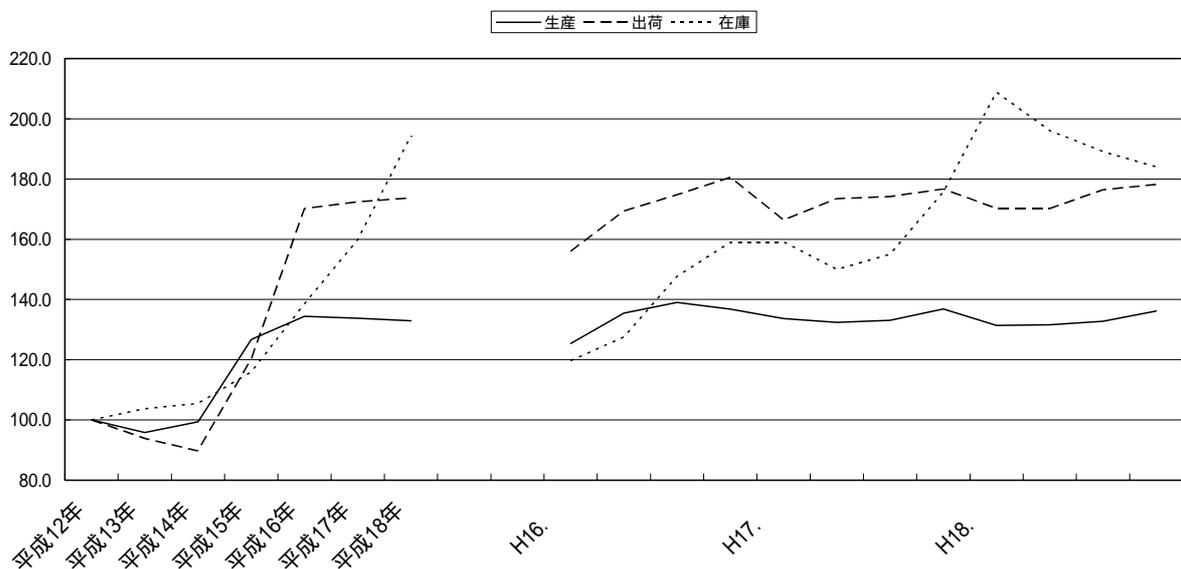
表8 鉄鋼業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
生産	99.4	126.7	134.4	133.8	132.9
前年比(%)	3.8	27.5	6.1	0.4	0.7
出荷	89.7	120.3	170.2	172.4	173.7
前年比(%)	4.5	34.1	41.5	1.3	0.8
在庫	105.5	116.0	138.6	159.8	194.3
前年比(%)	1.7	10.0	19.5	15.3	21.6

表9 鉄鋼業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成16年				平成17年				平成18年			
生産	125.4	135.5	139.0	136.8	133.7	132.4	133.1	136.9	131.4	131.6	132.8	136.2
前期比(%)	3.5	8.1	2.6	1.6	2.3	1.0	0.5	2.9	4.0	0.2	0.9	2.6
出荷	156.0	169.4	174.8	180.6	166.4	173.5	174.2	176.7	170.2	170.2	176.4	178.2
前期比(%)	22.8	8.6	3.2	3.3	7.9	4.3	0.4	1.4	3.7	0.0	3.6	1.0
在庫	119.7	127.5	147.7	159.0	159.1	150.0	155.0	175.7	208.8	196.0	189.1	184.0
前期比(%)	1.4	6.5	15.8	7.7	0.1	5.7	3.3	13.4	18.8	6.1	3.5	2.7

図8 鉄鋼業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



## イ 非鉄金属工業

平成18年の生産指数(原指数年平均)は、114.0で前年比8.9%、出荷指数は116.8で同9.1%、在庫指数は184.2で同8.9%それぞれ上昇した(表10)。

生産指数及び出荷指数は4年連続、在庫指数は7年連続でそれぞれ上昇した。

### <品目別>

品目別にみると、生産は、銅線、アルミニウム圧延製品、ダイカストなどの9品目が上昇し、銅系鋳物が低下した。

出荷は、銅線、伸銅製品、ダイカストなどの6品目が上昇し、銅系鋳物、アルミニウム系二次地金、アルミニウム圧延製品の3品目が低下した。

在庫は、アルミニウム系二次地金、銅ケーキ・ビレット、伸銅製品など4品目が上昇し、電気銅、アルミニウム圧延製品の2品目が低下した。

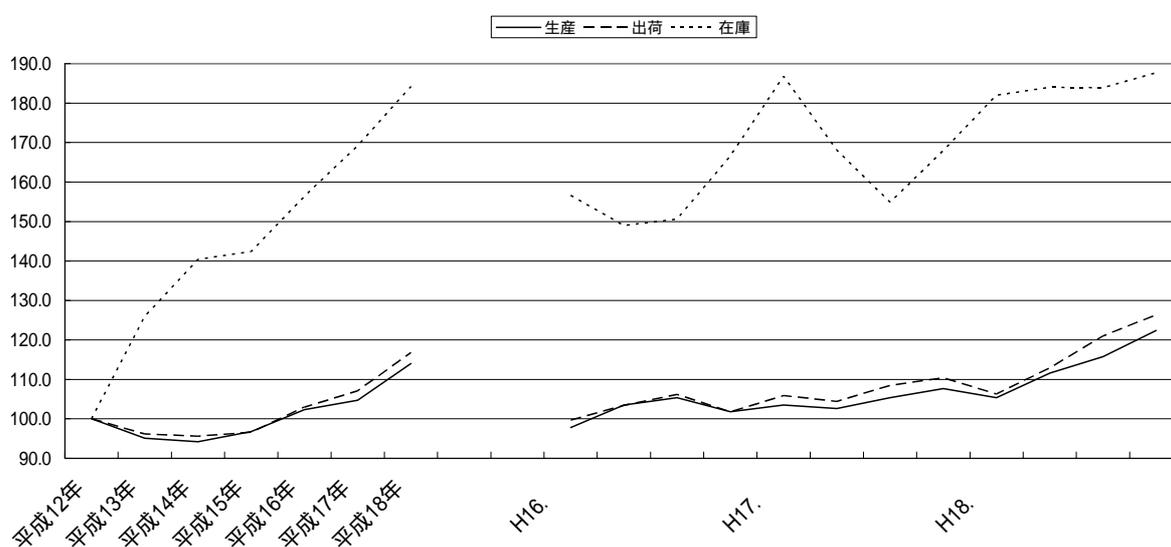
表10 非鉄金属工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
生産	94.2	96.8	102.3	104.7	114.0
前年比(%)	0.9	2.8	5.7	2.3	8.9
出荷	95.6	96.6	103.0	107.1	116.8
前年比(%)	0.6	1.0	6.6	4.0	9.1
在庫	140.4	142.4	156.4	169.2	184.2
前年比(%)	11.4	1.4	9.8	8.2	8.9

表11 非鉄金属工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成16年				平成17年				平成18年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	97.8	103.5	105.4	101.8	103.5	102.6	105.4	107.7	105.4	111.6	115.8	122.4
前期比(%)	1.5	5.8	1.8	3.4	1.7	0.9	2.7	2.2	2.1	5.9	3.8	5.7
出荷	99.7	103.4	106.2	101.8	105.9	104.4	108.5	110.4	106.3	112.9	121.0	126.3
前期比(%)	4.3	3.7	2.7	4.1	4.0	1.4	3.9	1.8	3.7	6.2	7.2	4.4
在庫	156.6	149.0	150.6	166.6	186.8	168.1	154.9	168.0	182.0	184.0	183.9	187.7
前期比(%)	10.2	4.9	1.1	10.6	12.1	10.0	7.9	8.5	8.3	1.1	0.1	2.1

図9 非鉄金属工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



## ウ 金属製品工業

平成18年の生産指数(原指数年平均)は、104.3で前年比12.3%、出荷指数は92.8で同13.4%、在庫指数は47.6で同0.6%それぞれ上昇した(表12)

生産指数及び出荷指数は4年連続でそれぞれ上昇し、在庫指数は2年ぶりに上昇した。

### <品目別>

品目別にみると、生産は、鉄塔、粉末冶金製機械材料、超硬チップなど4品目が上昇し、橋りょう、金網、スチール・ステンレス製建具などの5品目が低下した。

出荷は、鉄塔、粉末冶金製機械材料、アルミニウム製建具など5品目が上昇し、橋りょう、金網、スチール・ステンレス製建具などの4品目が低下した。

在庫は、超硬チップ、金網の2品目が上昇し、産業用軽金属板が低下した。

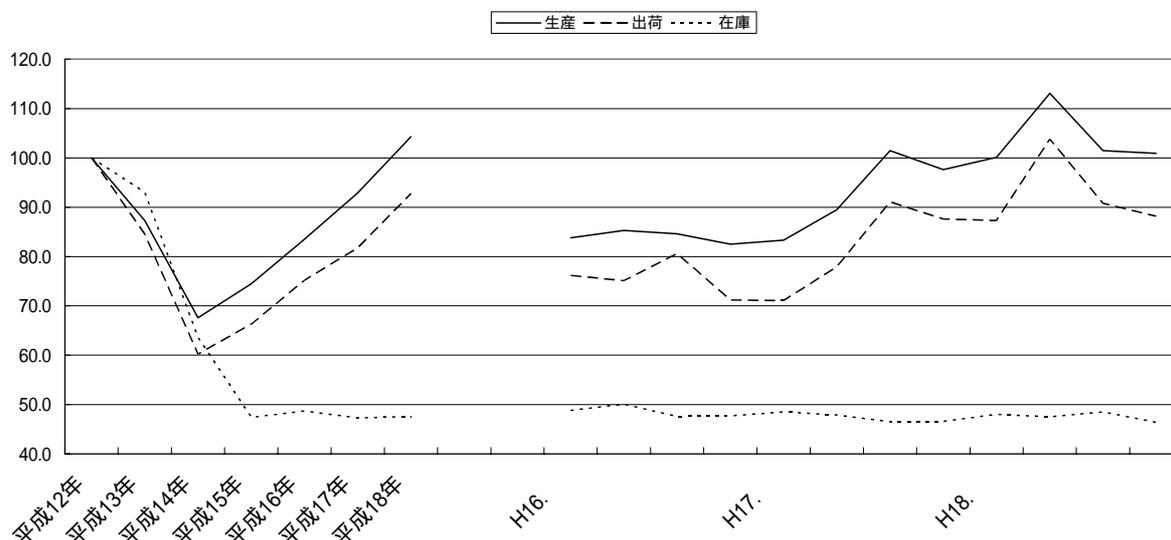
表12 金属製品工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
生産	67.6	74.5	83.5	92.9	104.3
前年比(%)	22.6	10.2	12.1	11.3	12.3
出荷	60.2	66.3	75.2	81.8	92.8
前年比(%)	28.8	10.1	13.4	8.8	13.4
在庫	63.6	47.4	48.7	47.3	47.6
前年比(%)	31.6	25.5	2.7	2.9	0.6

表13 金属製品工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成16年				平成17年				平成18年			
生産	83.8	85.3	84.6	82.5	83.3	89.5	101.5	97.6	100.1	113.1	101.5	100.9
前期比(%)	9.7	1.8	0.8	2.5	1.0	7.4	13.4	3.8	2.6	13.0	10.3	0.6
出荷	76.2	75.1	80.6	71.2	71.1	77.9	91.1	87.6	87.3	103.8	90.8	88.2
前期比(%)	13.2	1.4	7.3	11.7	0.1	9.6	16.9	3.8	0.3	18.9	12.5	2.9
在庫	48.8	50.1	47.6	47.7	48.5	47.9	46.5	46.6	48.0	47.5	48.5	46.4
前期比(%)	10.7	2.7	5.0	0.2	1.7	1.2	2.9	0.2	3.0	1.0	2.1	4.3

図10 金属製品工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



## エ 一般機械工業

平成18年の生産指数(原指数年平均)は、135.3で前年比12.9%、出荷指数は124.9で同10.7%、在庫指数は138.7で同70.6%それぞれ上昇した(表14)。

生産指数は5年連続、出荷指数は4年連続でそれぞれ上昇し、在庫指数は3年ぶりに上昇した。

### <品目別>

品目別にみると、生産は、金型、パルプ・製紙機械、巻上機など8品目が上昇し、木材加工機械、化学機械、ポンプなど12品目が低下した。

出荷は、金型、パルプ・製紙機械、巻上機など7品目が上昇し、木材加工機械、化学機械、ポンプなど13品目が低下した。

在庫は、特殊鋼切削工具、金属工作機械、ダイヤモンド工具などの6品目が上昇し、C(W)BN工具、食料品加工機械の2品目が低下した。

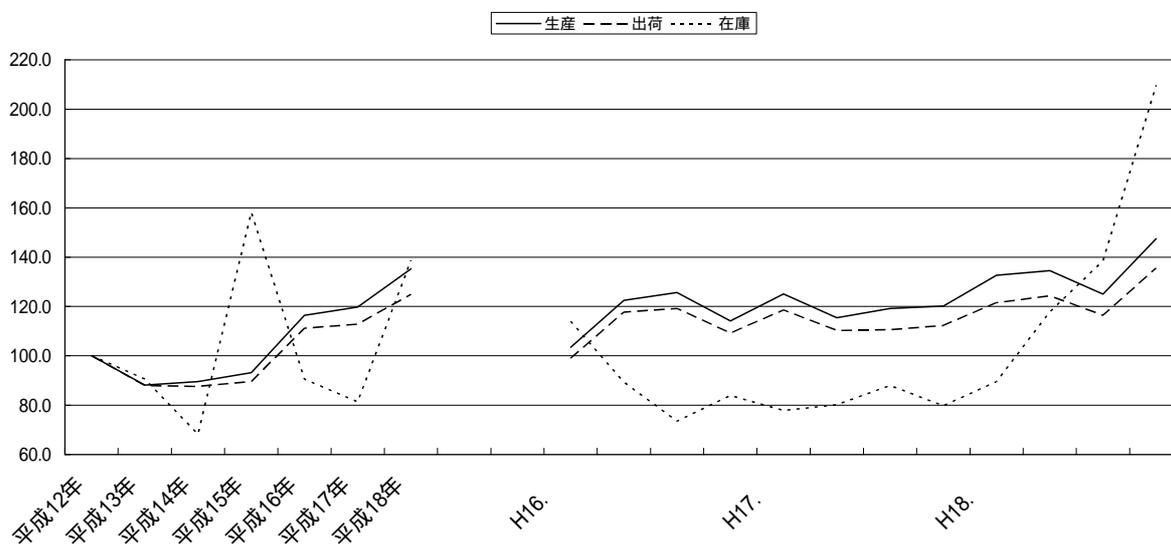
表14 一般機械工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
生産	89.6	93.2	116.4	119.8	135.3
前年比(%)	1.7	4.0	24.9	2.9	12.9
出荷	87.6	89.6	111.2	112.8	124.9
前年比(%)	0.5	2.3	24.1	1.4	10.7
在庫	68.2	158.2	90.5	81.3	138.7
前年比(%)	24.7	132.0	42.8	10.2	70.6

表15 一般機械工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成16年				平成17年				平成18年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	103.5	122.5	125.7	114.1	125.1	115.4	119.2	120.2	132.7	134.5	125.0	147.5
前期比(%)	7.6	18.4	2.6	9.2	9.6	7.8	3.3	0.8	10.4	1.4	7.1	18.0
出荷	99.0	117.7	119.2	109.2	118.6	110.3	110.6	112.3	121.6	124.3	116.4	135.6
前期比(%)	7.6	18.9	1.3	8.4	8.6	7.0	0.3	1.5	8.3	2.2	6.4	16.5
在庫	114.0	89.3	73.5	83.9	77.9	80.2	88.0	79.7	89.5	117.8	138.5	209.7
前期比(%)	28.1	21.7	17.7	14.1	7.2	3.0	9.7	9.4	12.3	31.6	17.6	51.4

図11 一般機械工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



## オ 電気機械工業

平成18年の生産指数(原指数年平均)は、232.1で前年比30.6%、出荷指数は268.3で同31.9%、在庫指数は301.5で同7.0%それぞれ上昇した(表16)。

生産指数及び出荷指数は5年連続、在庫指数は6年連続でそれぞれ上昇した。

### <品目別>

品目別にみると、生産は、直流機、シリコンウェハ、白熱電球など11品目が上昇し、ビデオ機器、交流電動機、乾電池など6品目が低下した。

出荷は、直流機、シリコンウェハ、産業用テレビ装置など10品目が上昇し、ビデオ機器、交流電動機、開閉制御装置など7品目が低下した。

在庫は、リチウムイオン蓄電池、シリコンウェハの2品目が上昇し、放電ランプ、鉛電池、乾電池の3品目が低下した。

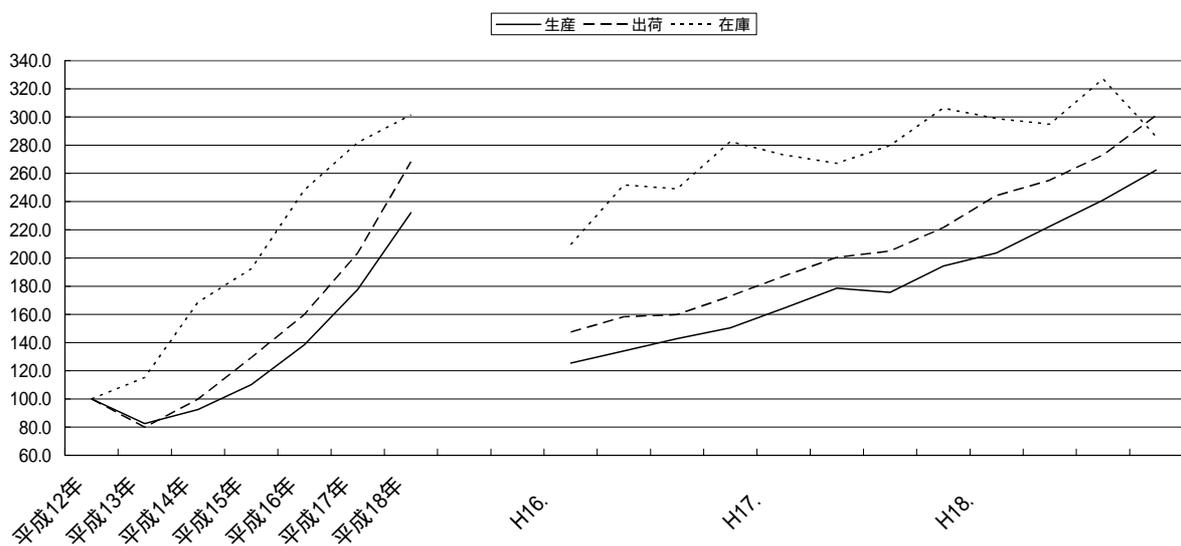
表16 電気機械工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
生産	92.5	110.2	138.5	177.7	232.1
前年比(%)	12.1	19.1	25.7	28.3	30.6
出荷	99.9	129.4	160.0	203.4	268.3
前年比(%)	25.2	29.5	23.6	27.1	31.9
在庫	168.6	192.3	248.3	281.8	301.5
前年比(%)	46.5	14.1	29.1	13.5	7.0

表17 電気機械工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成16年				平成17年				平成18年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	125.5	134.0	142.8	150.4	164.2	178.6	175.7	194.3	203.6	222.5	241.1	262.3
前期比(%)	3.7	6.8	6.6	5.3	9.2	8.8	1.6	10.6	4.8	9.3	8.4	8.8
出荷	147.5	158.3	159.8	173.0	187.1	200.5	204.9	221.6	244.3	255.2	273.0	301.1
前期比(%)	1.7	7.3	0.9	8.3	8.2	7.2	2.2	8.2	10.2	4.5	7.0	10.3
在庫	209.5	251.8	249.0	282.6	273.2	267.1	279.8	306.3	299.0	294.9	327.0	286.0
前期比(%)	21.2	20.2	1.1	13.5	3.3	2.2	4.8	9.5	2.4	1.4	10.9	12.5

図12 電気機械工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



## カ 情報通信機械工業

平成18年の生産指数(原指数年平均)は、98.9で前年比 10.5%、出荷指数は109.7で同 11.1%それぞれ低下し、在庫指数は94.4で同2.9%上昇した(表18)。

生産指数は3年ぶり、出荷指数は5年ぶりにそれぞれ低下し、在庫指数は2年ぶりに上昇した。

### <品目別>

品目別にみると、生産は、液晶テレビジョン受信機、パーソナルコンピュータ、移动通信装置(携帯電話・PHS)など5品目が上昇し、印刷装置、録音再生装置、ステレオなど7品目が低下した。

出荷は、液晶テレビジョン受信機、ボタン電話装置、電話機など7品目が上昇し、印刷装置、録音再生装置、ステレオなど4品目が低下した。

在庫は、電話機、自動車用音響機器、カーナビゲーションシステムの3品目が上昇し、ボタン電話装置、液晶テレビジョン受信機の2品目が低下した。

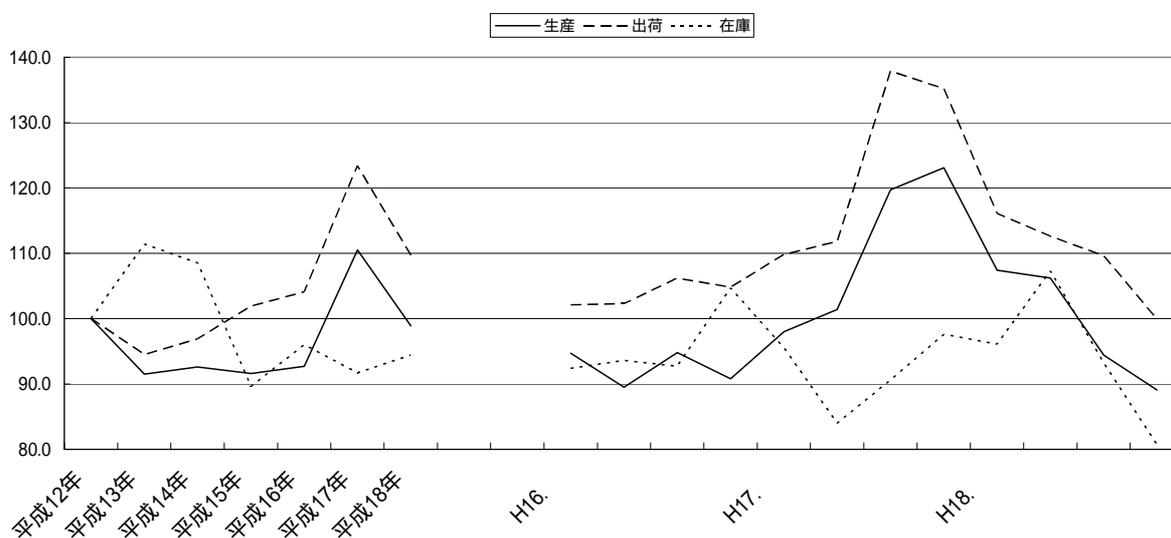
表18 情報通信機械工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
生産	92.6	91.6	92.7	110.5	98.9
前年比(%)	1.2	1.1	1.2	19.2	10.5
出荷	96.9	101.9	104.1	123.4	109.7
前年比(%)	2.5	5.2	2.2	18.5	11.1
在庫	108.5	89.6	96.0	91.7	94.4
前年比(%)	2.6	17.4	7.1	4.5	2.9

表19 情報通信機械工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成16年				平成17年				平成18年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	94.7	89.5	94.8	90.8	98.0	101.4	119.7	123.1	107.4	106.2	94.4	89.1
前期比(%)	0.4	5.5	5.9	4.2	7.9	3.5	18.0	2.8	12.8	1.1	11.1	5.6
出荷	102.1	102.3	106.2	104.8	109.8	111.8	137.9	135.2	116.1	112.6	109.6	99.9
前期比(%)	3.9	0.2	3.8	1.3	4.8	1.8	23.3	2.0	14.1	3.0	2.7	8.9
在庫	92.4	93.6	92.7	104.7	95.5	84.0	90.6	97.6	96.1	107.3	93.2	80.7
前期比(%)	13.5	1.3	1.0	12.9	8.8	12.0	7.9	7.7	1.5	11.7	13.1	13.4

図13 情報通信機械工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



## キ 電子部品・デバイス工業

平成18年の生産指数(原指数年平均)は、90.3で前年比 0.2%、出荷指数は84.6で同 2.0%、在庫指数は209.2で同 10.9%それぞれ低下した(表20)。

生産指数、出荷指数及び在庫指数は2年連続でそれぞれ低下した。

### <品目別>

品目別にみると、生産は、水晶振動子、混成集積回路、スイッチング電源など6品目が上昇し、テレビジョン・ビデオ用チューナ、液晶素子、スイッチなど6品目が低下した。

出荷は、水晶振動子、混成集積回路、スイッチング電源など6品目が上昇し、テレビジョン・ビデオ用チューナ、液晶素子、スイッチなど6品目が低下した。

在庫は、液晶素子、半導体素子、混成集積回路の3品目が低下した。

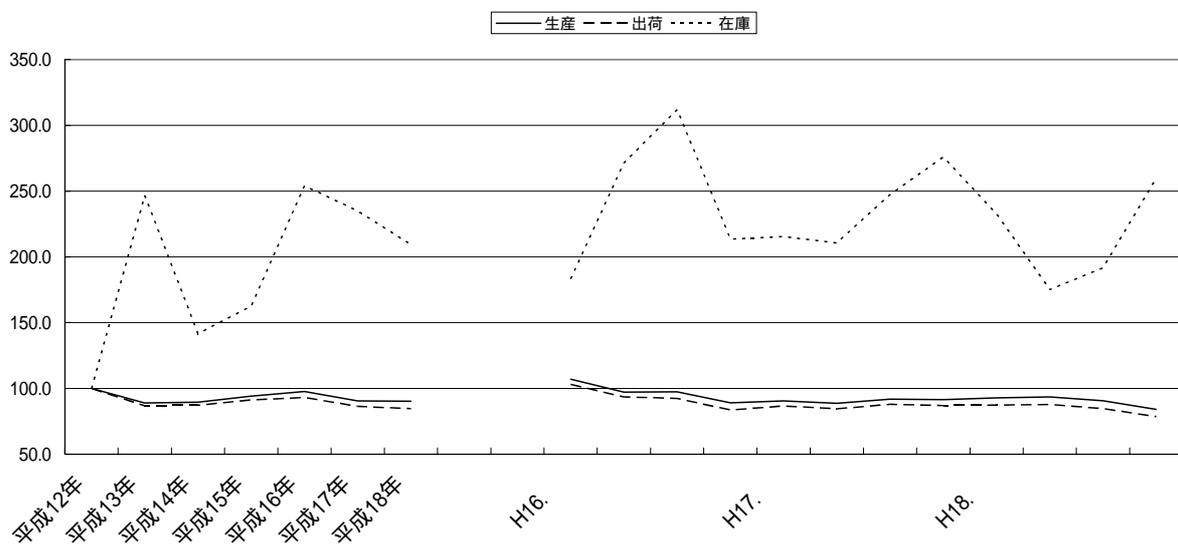
表20 電子部品・デバイス工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
生産	89.5	94.2	97.7	90.5	90.3
前年比(%)	0.7	5.3	3.7	7.4	0.2
出荷	87.3	91.2	93.1	86.3	84.6
前年比(%)	0.6	4.5	2.1	7.3	2.0
在庫	141.6	162.5	254.0	234.8	209.2
前年比(%)	42.6	14.8	56.3	7.6	10.9

表21 電子部品・デバイス工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成16年				平成17年				平成18年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	107.1	97.1	97.5	89.1	90.6	88.6	91.8	91.5	92.9	93.6	90.7	84.1
前期比(%)	2.1	9.3	0.4	8.6	1.7	2.2	3.6	0.3	1.5	0.8	3.1	7.3
出荷	103.1	93.6	92.4	83.7	86.6	84.5	87.9	86.9	87.4	87.8	84.7	78.6
前期比(%)	2.3	9.2	1.3	9.4	3.5	2.4	4.0	1.1	0.6	0.5	3.5	7.2
在庫	183.1	271.3	311.9	213.4	215.5	210.6	247.4	275.8	232.7	175.0	191.6	259.6
前期比(%)	0.2	48.2	15.0	31.6	1.0	2.3	17.5	11.5	15.6	24.8	9.5	35.5

図14 電子部品・デバイス工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



## ク 輸送機械工業

平成18年の生産指数(原指数年平均)は、114.2で前年比 1.3%、出荷指数は114.6で同 1.2%それぞれ低下し、在庫指数は196.6で同19.0%上昇した(表2.2)

生産指数及び出荷指数はそれぞれ4年ぶりに低下し、在庫指数は3年連続で上昇した。

### <品目別>

品目別にみると、生産は、自動車用オイルシール、自動車用ショックアブソーバの2品目が上昇し、自転車、自動車用ブレーキシリンダ、自動車用シリンダーライナなど6品目が低下した。

出荷は、自動車用オイルシール、自動車用ショックアブソーバの2品目が上昇し、自転車、自動車用ブレーキシリンダ、自動車用シリンダーライナなど6品目が低下した。

在庫は、自転車が上昇し、自動車用オイルシールが低下した。

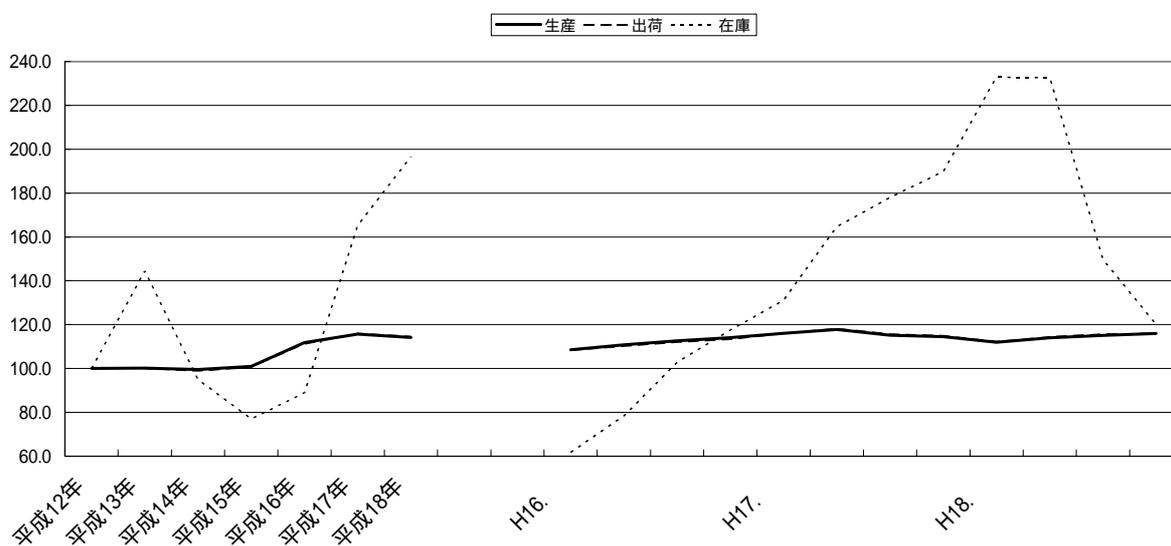
表2.2 輸送機械工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
生産	99.5	101.0	111.8	115.7	114.2
前年比(%)	0.7	1.5	10.7	3.5	1.3
出荷	98.9	100.6	111.2	116.0	114.6
前年比(%)	1.1	1.7	10.5	4.3	1.2
在庫	94.9	77.0	88.9	165.2	196.6
前年比(%)	34.3	18.9	15.5	85.8	19.0

表2.3 輸送機械工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成16年				平成17年				平成18年			
	前期比(%)											
生産	108.6	110.8	112.6	114.1	116.1	117.8	115.2	114.5	112.0	114.0	115.1	116.0
前期比(%)	5.2	2.0	1.6	1.3	1.8	1.5	2.2	0.6	2.2	1.8	1.0	0.8
出荷	108.3	110.2	112.0	113.3	116.1	118.2	115.7	114.9	112.3	114.4	115.7	116.1
前期比(%)	5.4	1.8	1.6	1.2	2.5	1.8	2.1	0.7	2.3	1.9	1.1	0.3
在庫	61.7	78.4	102.8	117.5	131.1	164.6	178.0	189.8	232.8	232.7	149.7	120.0
前期比(%)	18.0	27.1	31.1	14.3	11.6	25.6	8.1	6.6	22.7	0.0	35.7	19.8

図15 輸送機械工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



## ケ 精密機械工業

平成18年の生産指数（原指数年平均）は、87.2で前年比14.0%、出荷指数は90.2で同15.6%それぞれ上昇し、在庫指数は86.6で同2.8%低下した（表24）

生産指数は5年ぶり、出荷指数は3年ぶりにそれぞれ上昇し、在庫指数は4年連続で低下した。

### <品目別>

品目別にみると、生産は、精密測定器、カメラ、ガスメータなど4品目が上昇し、医療用具機械、携帯時計側の2品目が低下した。

出荷は、カメラ用交換レンズ、カメラ、ガスメータの3品目が上昇し、医療用具機械、携帯時計側の2品目が低下した。

在庫は、ガスメータが上昇し、カメラ用交換レンズ、カメラの2品目が低下した。

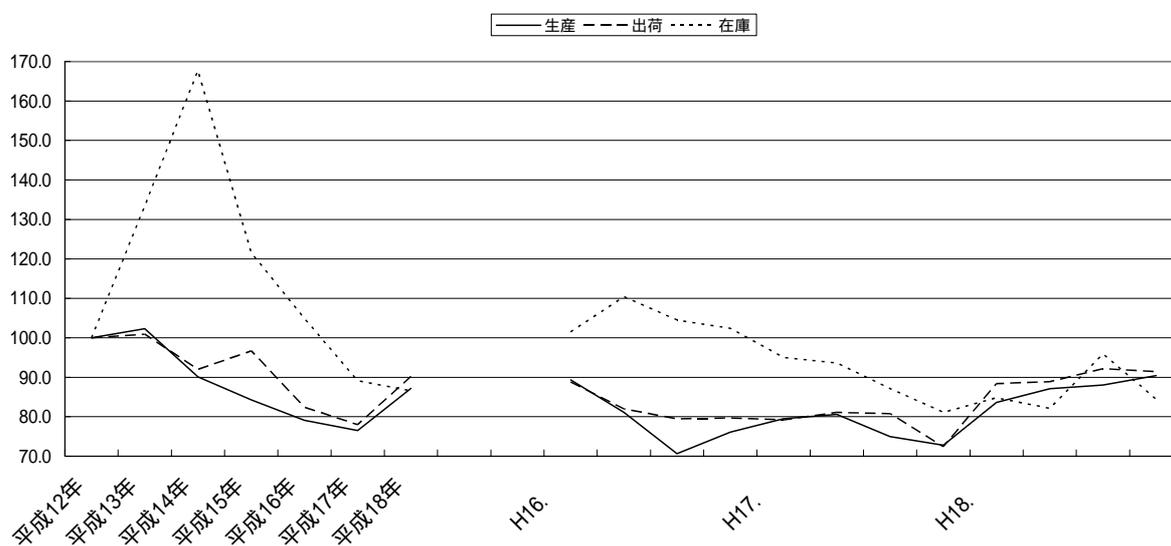
表24 精密機械工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
生産	90.1	84.3	79.1	76.5	87.2
前年比(%)	11.9	6.4	6.2	3.3	14.0
出荷	92.0	96.7	82.4	78.0	90.2
前年比(%)	8.8	5.1	14.8	5.3	15.6
在庫	167.7	121.5	104.9	89.1	86.6
前年比(%)	25.7	27.5	13.7	15.1	2.8

表25 精密機械工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成16年				平成17年				平成18年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	89.3	81.1	70.6	76.1	79.5	80.6	75.0	72.8	83.6	87.1	88.0	90.4
前期比(%)	13.0	9.2	12.9	7.8	4.5	1.4	6.9	2.9	14.8	4.2	1.0	2.7
出荷	88.8	82.0	79.5	79.7	79.2	81.1	80.8	72.4	88.4	88.9	92.2	91.4
前期比(%)	2.1	7.7	3.0	0.3	0.6	2.4	0.4	10.4	22.1	0.6	3.7	0.9
在庫	101.5	110.4	104.5	102.4	95.0	93.6	87.1	81.1	84.8	82.1	95.9	84.4
前期比(%)	0.4	8.8	5.3	2.0	7.2	1.5	6.9	6.9	4.6	3.2	16.8	12.0

図16 精密機械工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



コ 窯業・土石製品工業

平成18年の生産指数（原指数年平均）は、91.6で前年比1.0%、出荷指数は97.9で同5.3%それぞれ上昇し、在庫指数は97.3で同7.0%低下した（表26）。

生産指数は2年ぶり、出荷指数は3年ぶりにそれぞれ上昇し、在庫指数は2年ぶりに低下した。

<品目別>

品目別にみると、生産は、遠心力鉄筋コンクリート管、木材セメント板、遠心力鉄筋コンクリートなど8品目が上昇し、ファインセラミックス、遠心力鉄筋コンクリートパイル、不定形耐火物など10品目が低下した。

出荷は、遠心力鉄筋コンクリート管、木材セメント板、プレストレストコンクリート製品など10品目が上昇し、護岸用コンクリートブロック、耐火れんが、ガラス製容器類など8品目が低下した。

在庫は、不定形耐火物、ガラス基礎製品、プレストレストコンクリート製品など10品目が上昇し、木材セメント板、耐火れんが、遠心力鉄筋コンクリートパイルなど7品目が低下した。

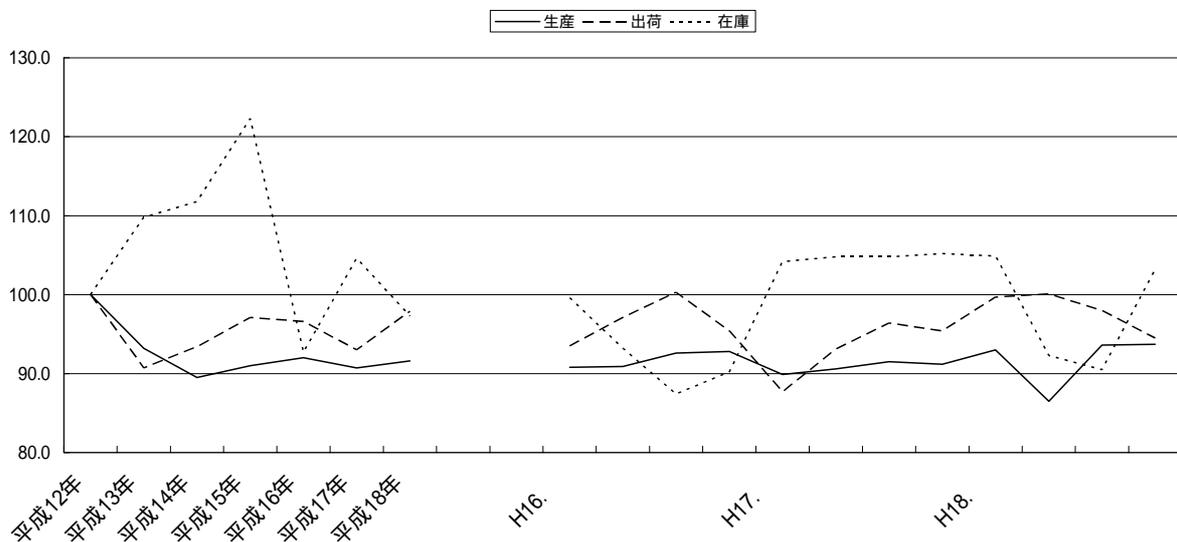
表26 窯業・土石製品工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
生産	89.5	91.0	92.0	90.7	91.6
前年比(%)	4.0	1.7	1.1	1.4	1.0
出荷	93.4	97.1	96.6	93.0	97.9
前年比(%)	3.0	4.0	0.5	3.7	5.3
在庫	111.8	122.3	92.7	104.6	97.3
前年比(%)	1.8	9.4	24.2	12.8	7.0

表27 窯業・土石製品工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成16年				平成17年				平成18年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	90.8	90.9	92.6	92.8	89.9	90.6	91.5	91.2	93.0	86.5	93.6	93.7
前期比(%)	7.6	0.1	1.9	0.2	3.1	0.8	1.0	0.3	2.0	7.0	8.2	0.1
出荷	93.5	97.1	100.3	95.4	87.7	93.1	96.4	95.4	99.7	100.1	98.0	94.5
前期比(%)	5.1	3.9	3.3	4.9	8.1	6.2	3.5	1.0	4.5	0.4	2.1	3.6
在庫	99.6	93.2	87.4	90.2	104.2	104.8	104.8	105.2	104.9	92.3	90.5	103.2
前期比(%)	7.5	6.4	6.2	3.2	15.5	0.6	0.0	0.4	0.3	12.0	2.0	14.0

図17 窯業・土石製品工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12=100.0)



## サ 化学工業

平成18年の生産指数(原指数年平均)は、90.9で前年比 2.4%、出荷指数は83.5で同 5.0%、在庫指数は115.1で同 14.7%それぞれ低下した(表28)

生産指数は3年連続、出荷指数は2年連続でそれぞれ低下し、在庫指数は2年ぶりに低下した。

### <品目別>

品目別にみると、生産は、フェノール樹脂、合成樹脂塗料、ふっ素樹脂など11品目が上昇し、クロルベンゼン、ホルマリン、活性炭など15品目が低下した。

出荷は、フェノール樹脂、合成樹脂塗料、ふっ素樹脂など12品目が上昇し、活性炭、医薬品、ホルマリンなど14品目が低下した。

在庫は、活性炭、塩化メチル、塩など10品目が上昇し、塩酸、クロルベンゼン、フェノール樹脂など11品目が低下した。

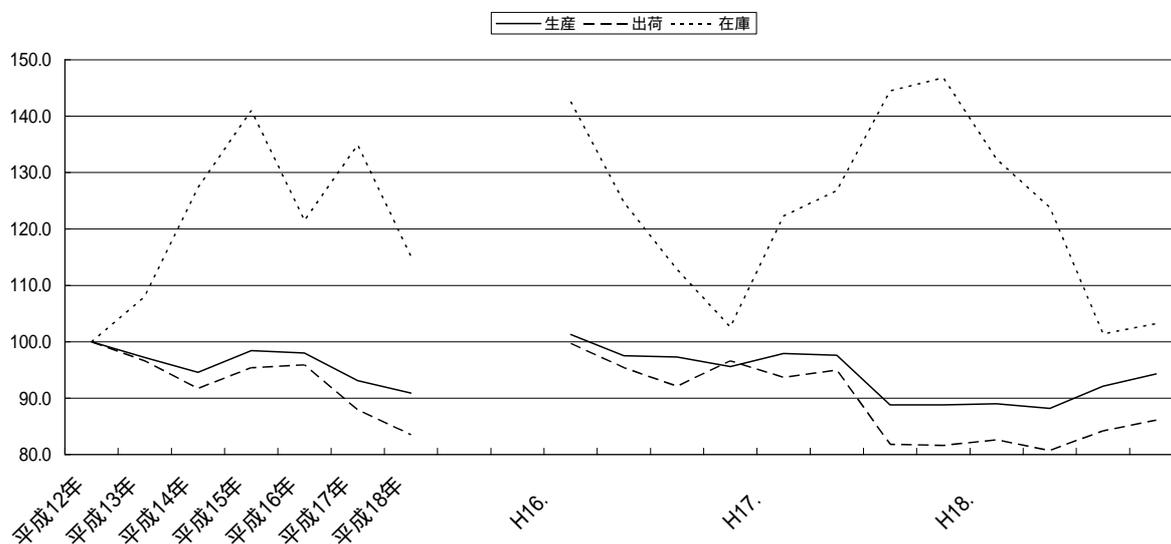
表28 化学工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
生産	94.6	98.4	98.0	93.1	90.9
前年比(%)	2.7	4.0	0.4	5.0	2.4
出荷	91.7	95.4	95.9	87.9	83.5
前年比(%)	5.1	4.0	0.5	8.3	5.0
在庫	127.3	141.0	121.5	134.9	115.1
前年比(%)	17.9	10.8	13.8	11.0	14.7

表29 化学工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成16年				平成17年				平成18年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	101.3	97.5	97.3	95.6	97.9	97.6	88.8	88.8	89.0	88.2	92.1	94.3
前期比(%)	7.8	3.8	0.2	1.7	2.4	0.3	9.0	0.0	0.2	0.9	4.4	2.4
出荷	99.7	95.4	92.1	96.6	93.7	95.0	81.8	81.6	82.6	80.7	84.2	86.1
前期比(%)	8.3	4.3	3.5	4.9	3.0	1.4	13.9	0.2	1.2	2.3	4.3	2.3
在庫	142.6	124.7	112.8	102.6	122.3	126.8	144.5	146.8	132.4	123.8	101.4	103.2
前期比(%)	8.4	12.6	9.5	9.0	19.2	3.7	14.0	1.6	9.8	6.5	18.1	1.8

図18 化学工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



## シ プラスチック製品工業

平成18年の生産指数(原指数年平均)は、115.8で前年比3.8%、出荷指数は128.4で同3.8%それぞれ上昇、在庫指数は169.5で同0.5%低下した(表30)。

生産指数は3年連続、出荷指数は5年連続でそれぞれ上昇し、在庫指数は2年連続で低下した。

### <品目別>

品目別にみると、生産は、プラスチック製容器、プラスチック製機械器具部品、プラスチック製フィルムの3品目が上昇し、プラスチック製日用品・雑貨、ウレタンフォーム、強化製品など4品目が低下した。

出荷は、プラスチック製日用品・雑貨、プラスチック製機械器具部品、プラスチック製容器など5品目が上昇し、ウレタンフォーム、発泡製品の2品目が低下した。

在庫は、プラスチック製日用品・雑貨、発泡製品、プラスチック製容器の3品目が上昇し、強化製品、ウレタンフォーム、プラスチック製機械器具部品の3品目が低下した。

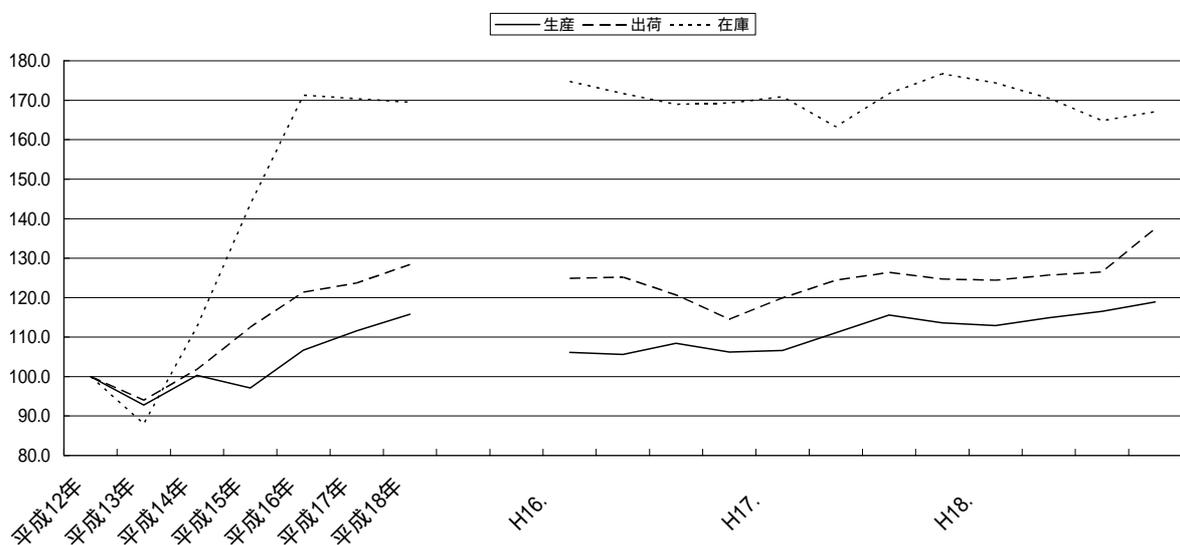
表30 プラスチック製品工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
生産	100.3	97.1	106.7	111.6	115.8
前年比(%)	8.1	3.2	9.9	4.6	3.8
出荷	101.8	112.5	121.4	123.7	128.4
前年比(%)	8.3	10.5	7.9	1.9	3.8
在庫	112.6	143.6	171.3	170.4	169.5
前年比(%)	28.0	27.5	19.3	0.5	0.5

表31 プラスチック製品工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成16年				平成17年				平成18年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	106.1	105.6	108.4	106.2	106.6	111.1	115.6	113.6	112.9	114.9	116.5	118.9
前期比(%)	8.5	0.5	2.7	2.0	0.4	4.2	4.1	1.7	0.6	1.8	1.4	2.1
出荷	124.9	125.2	120.7	114.5	119.9	124.4	126.4	124.7	124.4	125.7	126.5	137.5
前期比(%)	13.4	0.2	3.6	5.1	4.7	3.8	1.6	1.3	0.2	1.0	0.6	8.7
在庫	174.8	171.7	169.0	169.3	170.9	163.3	171.7	176.7	174.4	170.5	164.8	167.1
前期比(%)	11.8	1.8	1.6	0.2	0.9	4.4	5.1	2.9	1.3	2.2	3.3	1.4

図19 プラスチック製品工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



## ス パルプ・紙・紙加工品工業

平成18年の生産指数(原指数年平均)は、113.0で前年比 1.1%、出荷指数は114.7で同 1.6%それぞれ低下し、在庫指数は105.8で横ばいとなった(表32)

生産指数は8年ぶり、出荷指数は9年ぶりにそれぞれ低下した。

### <品目別>

品目別にみると、生産は、情報用紙、雑種紙、段ボール原紙など5品目が上昇し、雑板紙、新聞巻取紙、段ボールシートの3品目が低下した。

出荷は、情報用紙、雑種紙、段ボール原紙など5品目が上昇し、雑板紙、新聞巻取紙、段ボールシートの3品目が低下した。

在庫は、雑種紙、塗工紙、段ボールシートの3品目が上昇し、雑板紙、段ボール原紙、段ボール箱の3品目が低下した。

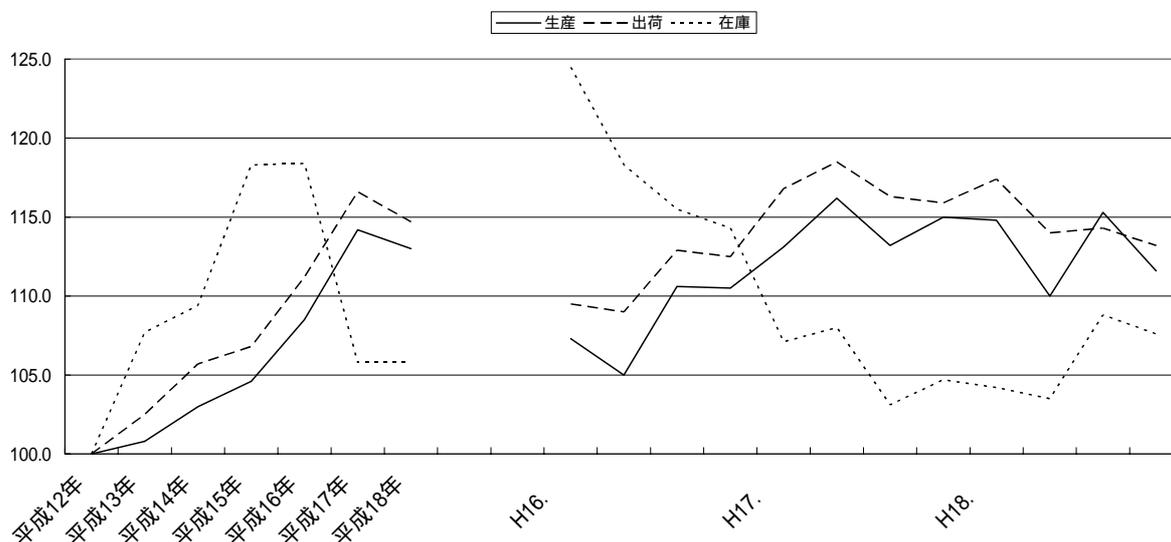
表32 パルプ・紙・紙加工品工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
生産	103.0	104.6	108.5	114.2	113.0
前年比(%)	2.2	1.6	3.7	5.3	1.1
出荷	105.7	106.8	111.2	116.6	114.7
前年比(%)	3.1	1.0	4.1	4.9	1.6
在庫	109.4	118.3	118.4	105.8	105.8
前年比(%)	1.6	8.1	0.1	10.6	0.0

表33 パルプ・紙・紙加工品工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成16年				平成17年				平成18年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	107.3	105.0	110.6	110.5	113.1	116.2	113.2	115.0	114.8	110.0	115.3	111.6
前期比(%)	1.1	2.1	5.3	0.1	2.4	2.7	2.6	1.6	0.2	4.2	4.8	3.2
出荷	109.5	109.0	112.9	112.5	116.8	118.5	116.3	115.9	117.4	114.0	114.3	113.2
前期比(%)	2.6	0.5	3.6	0.4	3.8	1.5	1.9	0.3	1.3	2.9	0.3	1.0
在庫	124.5	118.3	115.5	114.3	107.1	108.0	103.1	104.7	104.2	103.5	108.8	107.6
前期比(%)	6.7	5.0	2.4	1.0	6.3	0.8	4.5	1.6	0.5	0.7	5.1	1.1

図20 パルプ・紙・紙加工品工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



## セ 繊維工業

平成18年の生産指数（原指数年平均）は、67.1で前年比 5.2%、出荷指数は66.9で同 5.5%、在庫指数は95.3で同 2.8%それぞれ低下した（表34）

生産指数及び出荷指数は9年連続、在庫指数は3年連続でそれぞれ低下した。

### <品目別>

品目別にみると、生産は、ニット製外衣が上昇し、織物製補整着、ニット製靴下、合成繊維織物など9品目が低下した。

出荷は、ニット製外衣が上昇し、織物製補整着、ふとん、合成繊維織物など9品目が低下した。

在庫は、織物製外衣、織物製補正着、ふとんの3品目が上昇し、ニット製外衣、絹・絹紡織物、合成繊維織物など7品目が低下した。

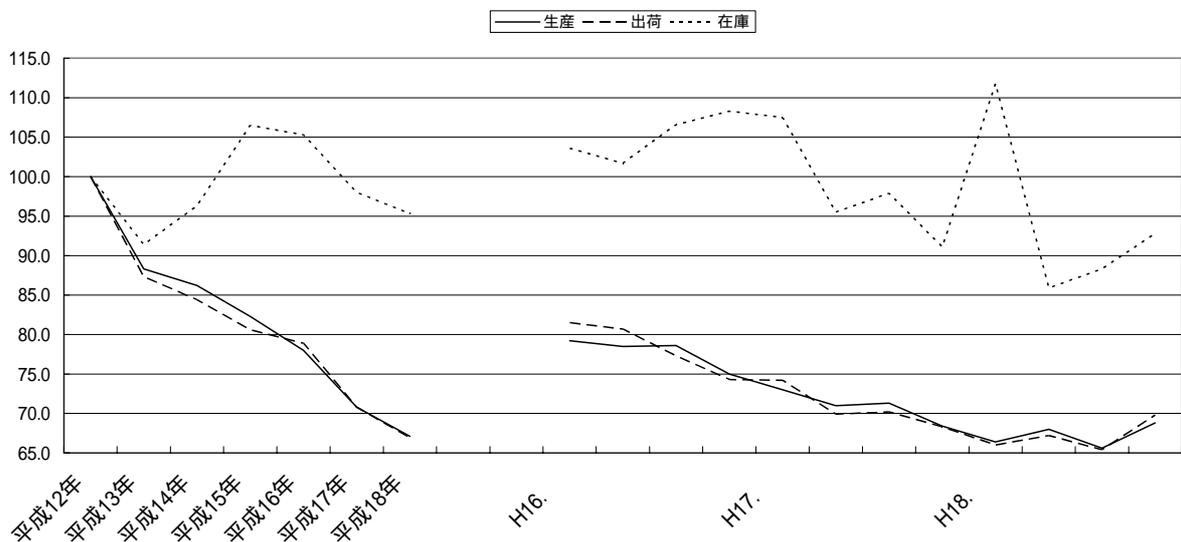
表34 繊維工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
生産	86.2	82.3	78.0	70.8	67.1
前年比(%)	2.4	4.5	5.2	9.2	5.2
出荷	84.4	80.6	78.9	70.8	66.9
前年比(%)	3.3	4.5	2.1	10.3	5.5
在庫	96.3	106.5	105.3	98.0	95.3
前年比(%)	5.4	10.6	1.1	6.9	2.8

表35 繊維工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成16年				平成17年				平成18年			
	前期比(%)											
生産	79.2	78.5	78.6	75.0	73.0	71.0	71.3	68.4	66.4	68.0	65.6	68.8
前期比(%)	3.5	0.9	0.1	4.6	2.7	2.7	0.4	4.1	2.9	2.4	3.5	4.9
出荷	81.5	80.7	77.3	74.3	74.2	69.9	70.2	68.3	66.0	67.2	65.4	69.8
前期比(%)	1.4	1.0	4.2	3.9	0.1	5.8	0.4	2.7	3.4	1.8	2.7	6.7
在庫	103.6	101.7	106.6	108.3	107.5	95.5	97.9	91.1	111.8	85.9	88.3	92.8
前期比(%)	2.2	1.8	4.8	1.6	0.7	11.2	2.5	6.9	22.7	23.2	2.8	5.1

図21 繊維工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移  
(平成12年=100.0)



## ソ 食料品・たばこ工業

平成18年の生産指数(原指数年平均)は、84.0で前年比 10.7%、出荷指数は85.8で同 12.2%、在庫指数は117.2で同 2.0%それぞれ低下した(表36)

生産指数及び出荷指数は5年連続、在庫指数は3年連続でそれぞれ低下した。

### <品目別>

品目別にみると、生産は、果実缶詰、肉製品、米菓など5品目が上昇し、配合飼料、水産練製品、清涼飲料など20品目が低下した。

出荷は、果実缶詰、肉製品、米菓など6品目が上昇し、配合飼料、水産練製品、練乳・粉乳など19品目が低下した。

在庫は、めん類、精米、練乳・粉乳など6製品が上昇し、配合飼料、清涼飲料、焼酎など5品目が低下した。

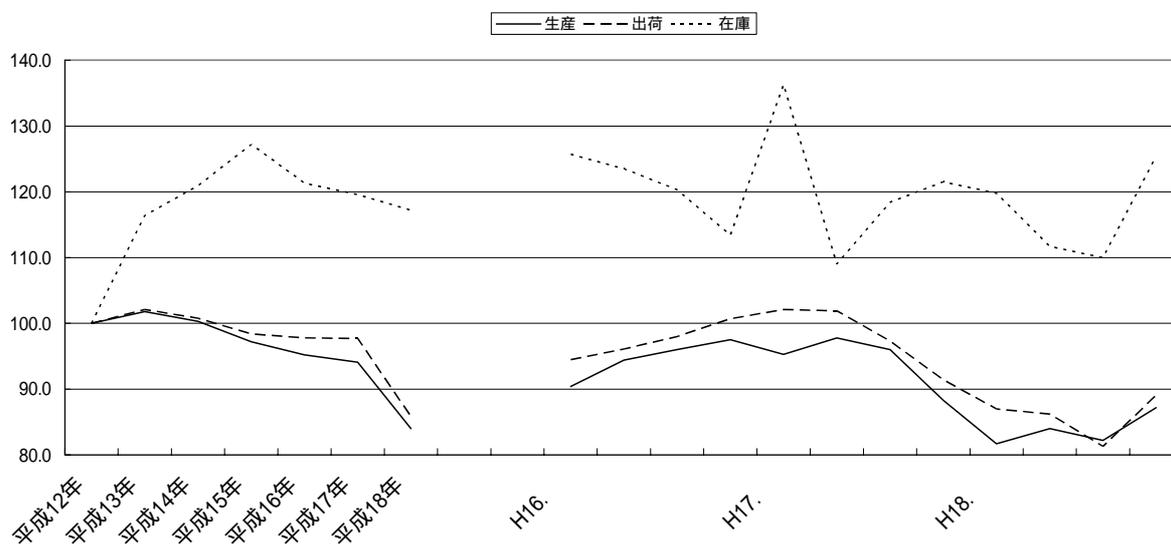
表36 食料品・たばこ工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
生産	100.3	97.2	95.2	94.1	84.0
前年比(%)	1.5	3.1	2.1	1.2	10.7
出荷	100.8	98.4	97.8	97.7	85.8
前年比(%)	1.3	2.4	0.6	0.1	12.2
在庫	120.9	127.2	121.3	119.6	117.2
前年比(%)	3.9	5.2	4.6	1.4	2.0

表37 食料品・たばこ工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成16年				平成17年				平成18年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	90.4	94.4	96.0	97.5	95.3	97.8	96.0	88.3	81.7	84.0	82.2	87.2
前期比(%)	8.1	4.4	1.7	1.6	2.3	2.6	1.8	8.0	7.5	2.8	2.1	6.1
出荷	94.5	96.1	98.0	100.7	102.1	101.9	97.3	91.4	87.0	86.2	81.3	89.1
前期比(%)	3.1	1.7	2.0	2.8	1.4	0.2	4.5	6.1	4.8	0.9	5.7	9.6
在庫	125.7	123.5	120.3	113.4	136.3	109.0	118.4	121.5	119.8	111.7	110.0	125.4
前期比(%)	3.7	1.8	2.6	5.7	20.2	20.0	8.6	2.6	1.4	6.8	1.5	14.0

図22 食料品・たばこ工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



## タ ゴム、皮革製品工業

平成18年の生産指数(原指数年平均)は、108.7で前年比 0.9%、出荷指数は131.1で同 0.3%それぞれ低下し、在庫指数は111.0で同25.4%上昇した(表38)

生産指数は5年ぶり、出荷指数は4年ぶりにそれぞれ低下し、在庫指数は2年連続で上昇した。

### <品目別>

品目別にみると、生産は、自動車用タイヤ、革靴、ゴム製履物の3品目が上昇し、工業用ゴム製品が低下した。

出荷は、ゴム製履物、自動車用タイヤ、革靴の3品目が上昇し、工業用ゴム製品が低下した。

在庫は、自動車用タイヤ、革靴、工業用ゴム製品の3品目が上昇し、ゴム製履物が低下した。

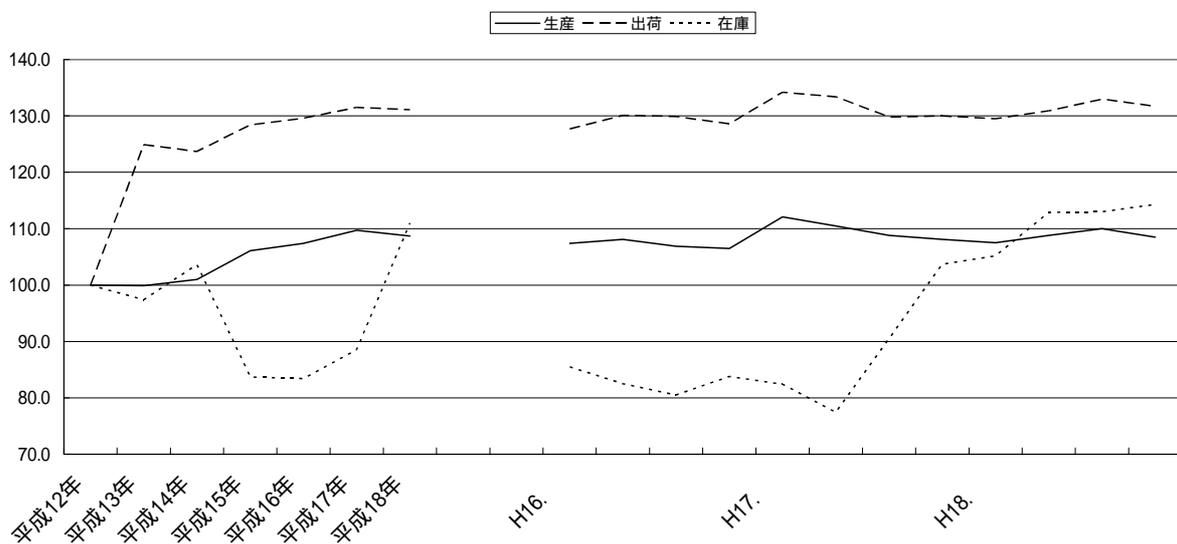
表38 ゴム、皮革製品工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
生産	101.0	106.1	107.4	109.7	108.7
前年比(%)	1.1	5.0	1.2	2.1	0.9
出荷	123.7	128.4	129.6	131.5	131.1
前年比(%)	1.0	3.8	0.9	1.5	0.3
在庫	103.6	83.7	83.4	88.5	111.0
前年比(%)	6.4	19.2	0.4	6.1	25.4

表39 ゴム、皮革製品工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成16年				平成17年				平成18年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	107.4	108.1	106.9	106.5	112.1	110.5	108.8	108.1	107.5	108.8	110.0	108.5
前期比(%)	0.9	0.7	1.1	0.4	5.3	1.4	1.5	0.6	0.6	1.2	1.1	1.4
出荷	127.7	130.1	129.9	128.6	134.2	133.4	129.8	130.0	129.5	130.9	133.0	131.7
前期比(%)	1.3	1.9	0.2	1.0	4.4	0.6	2.7	0.2	0.4	1.1	1.6	1.0
在庫	85.5	82.5	80.5	83.8	82.4	77.4	90.5	103.7	105.2	112.9	113.0	114.3
前期比(%)	12.9	3.5	2.4	4.1	1.7	6.1	16.9	14.6	1.4	7.3	0.1	1.2

図23 ゴム、皮革製品工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



チ 木材・木製品工業

平成18年の生産指数(原指数年平均)は、55.2で前年比7.8%、出荷指数は55.9で同8.1%、在庫指数は100.8で同3.0%それぞれ低下した(表40)。

生産指数は6年連続、出荷指数は3年連続、在庫指数は4年連続でそれぞれ低下した。

<品目別>

品目別にみると、生産は、パーティクルボードが上昇し、一般製材、繊維板の2品目が低下した。

出荷は、パーティクルボードが上昇し、一般製材、繊維板の2品目が低下した。

在庫は、パーティクルボード、繊維板の2品目が上昇し、一般製材が低下した。

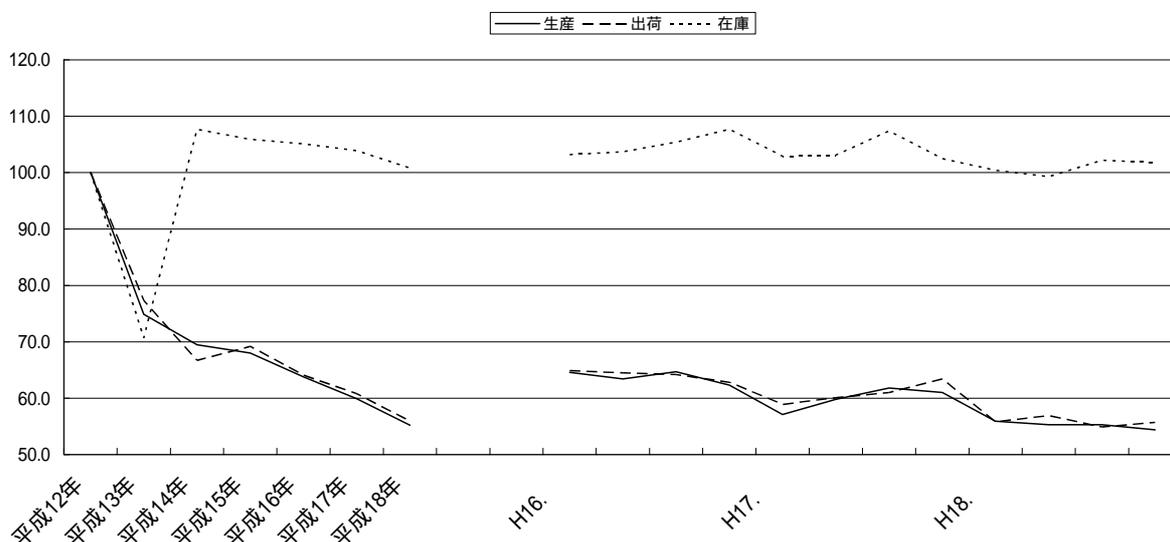
表40 木材・木製品工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
生産	69.5	68.0	63.8	59.9	55.2
前年比(%)	7.2	2.2	6.2	6.1	7.8
出荷	66.7	69.2	64.1	60.8	55.9
前年比(%)	13.7	3.7	7.4	5.1	8.1
在庫	107.7	105.9	105.1	103.9	100.8
前年比(%)	52.3	1.7	0.8	1.1	3.0

表41 木材・木製品工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成16年				平成17年				平成18年			
生産	64.6	63.4	64.7	62.3	57.1	59.8	61.8	61.0	55.9	55.3	55.3	54.4
前期比(%)	3.9	1.9	2.1	3.7	8.3	4.7	3.3	1.3	8.4	1.1	0.0	1.6
出荷	64.9	64.5	64.2	62.8	58.9	60.1	61.0	63.4	55.8	56.9	54.9	55.7
前期比(%)	3.0	0.6	0.5	2.2	6.2	2.0	1.5	3.9	12.0	2.0	3.5	1.5
在庫	103.2	103.7	105.4	107.7	102.9	103.1	107.4	102.5	100.4	99.3	102.2	101.8
前期比(%)	1.8	0.5	1.6	2.2	4.5	0.2	4.2	4.6	2.0	1.1	2.9	0.4

図24 木材・木製品工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



## ツ その他製品工業

平成18年の生産指数(原指数年平均)は、94.7で前年比 0.5%、出荷指数は93.4で同 0.3%それぞれ低下し、在庫指数は94.3で同2.1%上昇した(表42)。

生産指数及び出荷指数は2年ぶりに低下し、在庫指数は3年連続で上昇した。

### <品目別>

品目別にみると、生産は、印刷物が上昇し、玩具、ペン、台所用金属製家具の3品目が低下した。

出荷は、印刷物、台所用金属製家具の2品目が上昇し、玩具、ペンの2品目が低下した。

在庫は、台所用金属製家具が上昇し、玩具が低下した。

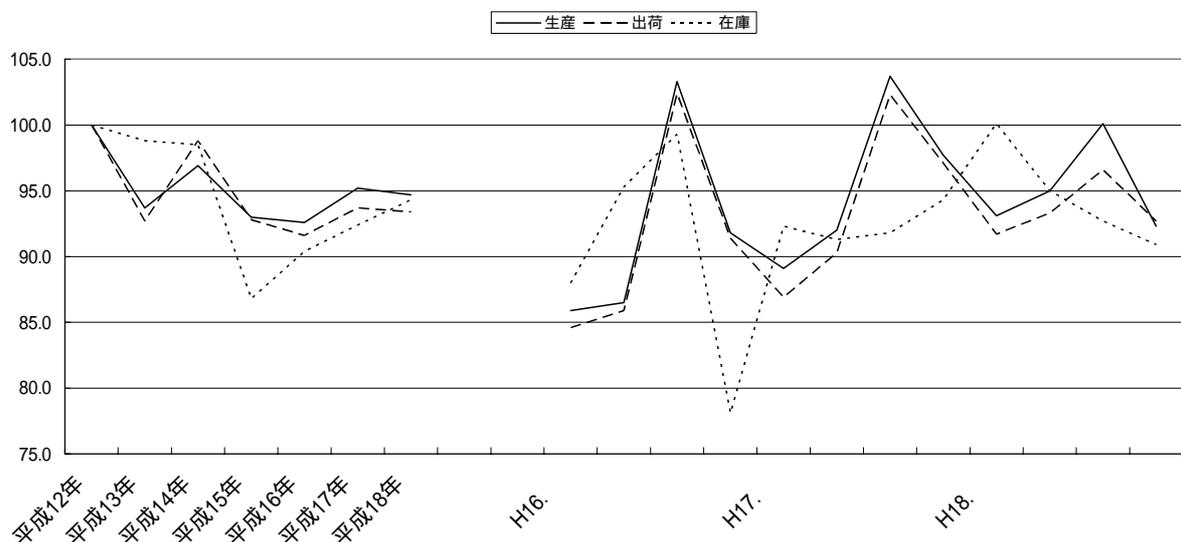
表42 その他製品工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
生産	96.9	93.0	92.6	95.2	94.7
前年比(%)	3.4	4.0	0.4	2.8	0.5
出荷	98.8	92.8	91.6	93.7	93.4
前年比(%)	6.6	6.1	1.3	2.3	0.3
在庫	98.5	86.8	90.4	92.4	94.3
前年比(%)	0.3	11.9	4.1	2.2	2.1

表43 その他製品工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成16年				平成17年				平成18年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	85.9	86.5	103.3	91.8	89.1	92.0	103.7	97.7	93.1	95.0	100.1	92.3
前期比(%)	7.5	0.7	19.4	11.1	2.9	3.3	12.7	5.8	4.7	2.0	5.4	7.8
出荷	84.6	85.9	102.4	91.4	86.9	90.3	102.3	97.1	91.7	93.3	96.6	92.7
前期比(%)	8.2	1.5	19.2	10.7	4.9	3.9	13.3	5.1	5.6	1.7	3.5	4.0
在庫	88.0	95.3	99.3	78.1	92.3	91.3	91.8	94.3	100.1	95.0	92.7	90.9
前期比(%)	2.1	8.3	4.2	21.3	18.2	1.1	0.5	2.7	6.2	5.1	2.4	1.9

図25 その他製品工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



## テ 鋳業

平成18年の生産指数(原指数年平均)は、76.3で前年比 15.2%、出荷指数は75.6で同 16.4%、在庫指数は57.0で同 2.6%それぞれ低下した(表44)。

生産指数及び出荷指数は3年連続で低下し、在庫指数は4年ぶりに低下した。

### <品目別>

品目別にみると、生産は、石灰石が上昇し、けい砂、原油、天然ガスの3品目が低下した。

出荷は、石灰石が上昇し、原油、けい砂、天然ガスの3品目が低下した。

在庫は、けい砂が上昇し、石灰石、原油の2品目が低下した。

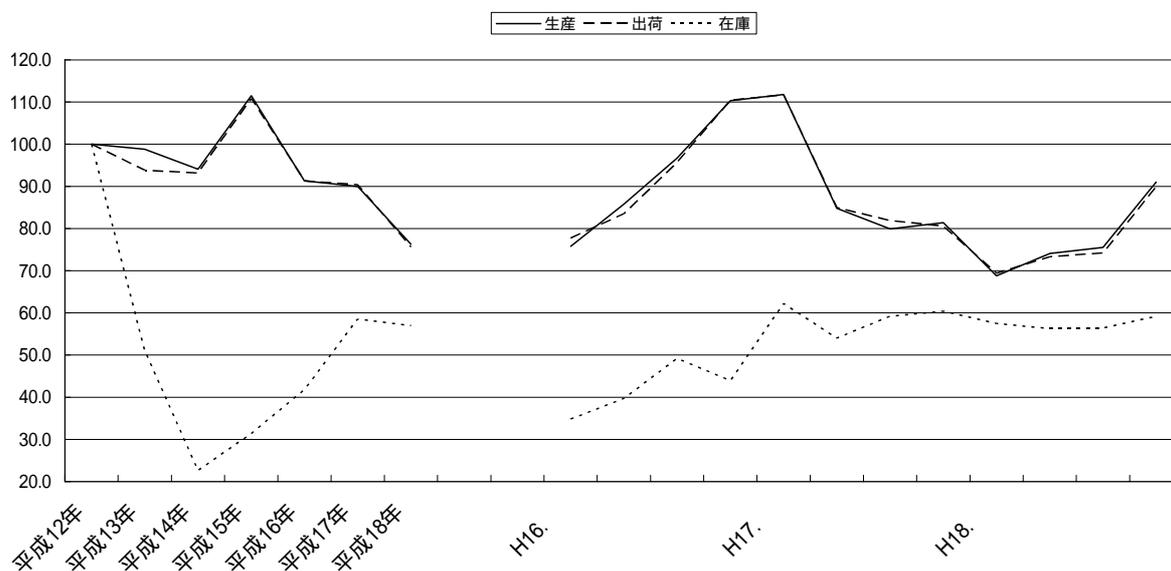
表44 鋳業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
生産	94.1	111.5	91.3	90.0	76.3
前年比(%)	4.8	18.5	18.1	1.4	15.2
出荷	93.2	110.8	91.3	90.4	75.6
前年比(%)	0.6	18.9	17.6	1.0	16.4
在庫	22.6	31.4	41.8	58.5	57.0
前年比(%)	55.7	38.9	33.1	40.0	2.6

表45 鋳業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成16年				平成17年				平成18年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	75.8	85.8	96.7	110.3	111.8	84.8	79.9	81.4	68.8	74.1	75.5	91.0
前期比(%)	8.6	13.2	12.7	14.1	1.4	24.2	5.8	1.9	15.5	7.7	1.9	20.5
出荷	77.7	83.5	95.7	110.4	111.7	85.0	81.9	80.6	69.4	73.3	74.2	89.9
前期比(%)	11.8	7.5	14.6	15.4	1.2	23.9	3.6	1.6	13.9	5.6	1.2	21.2
在庫	34.8	39.7	49.2	43.9	62.2	54.0	59.2	60.4	57.5	56.3	56.4	59.2
前期比(%)	2.8	14.1	23.9	10.8	41.7	13.2	9.6	2.0	4.8	2.1	0.2	5.0

図26 鋳業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



(3) 財別の動向

ア 概況

最終需要財の生産指数（原指数年平均）は 88.4 で前年比 6.5%、出荷指数は 92.7 で同 8.0%、在庫指数は 103.9 で同 0.6%それぞれ低下した。

生産財の生産指数は 121.8 で前年比 8.1%、出荷指数は 132.3 で同 10.3%それぞれ上昇し、在庫指数は 154.7 で同 1.0 低下した（表 4 6）。

< 四半期別推移（季節調整済指数） >

最終需要財の生産指数は平成 1 7 年 期から低下し、平成 1 8 年 期で 3 期ぶりに上昇し、 期に低下した後、 期に上昇した。出荷指数は平成 1 7 年 期から低下し、平成 1 8 年 期で 5 期ぶりに上昇した。在庫指数は、平成 1 7 年 期から 3 期連続で上昇し、平成 1 8 年 期、 期に低下した後、 期に上昇した（表 4 7）。

生産財の生産指数及び出荷指数は、平成 1 7 年 期から 8 期連続で上昇した。在庫指数は、平成 1 8 年 期から低下し、 期で 4 期ぶりに上昇した（表 4 8）。

表 4 6 財別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

		最終需要財														生産財	
		投資財								消費財							
						資本財		建設財				耐久消費財		非耐久消費財			
		年平均 指数	前年比 (%)														
生 産	平成14年	90.4	4.5	88.2	6.0	98.3	0.2	75.0	15.0	91.5	3.8	84.4	2.2	94.2	4.2	95.8	3.0
	平成15年	90.6	0.2	89.8	1.8	98.6	0.3	78.5	4.7	91.0	0.5	83.2	1.4	93.9	0.3	99.6	4.0
	平成16年	91.1	0.6	96.1	7.0	109.5	11.1	78.8	0.4	88.5	2.7	77.1	7.3	92.7	1.3	108.2	8.6
	平成17年	94.5	3.7	108.8	13.2	130.9	19.5	80.1	1.6	87.2	1.5	80.8	4.8	89.5	3.5	112.7	4.2
	平成18年	88.4	6.5	101.6	6.6	116.2	11.2	82.6	3.1	81.7	6.3	83.9	3.8	80.9	9.6	121.8	8.1
出 荷	平成14年	92.0	3.6	91.0	4.7	101.2	1.4	72.3	17.5	92.6	2.9	88.0	0.7	94.5	4.3	96.9	4.8
	平成15年	95.1	3.4	97.3	6.9	107.5	6.2	78.7	8.9	93.8	1.3	92.0	4.5	94.5	0.0	103.5	6.8
	平成16年	95.8	0.7	101.6	4.4	114.1	6.1	78.8	0.1	92.5	1.4	87.5	4.9	94.6	0.1	114.2	10.3
	平成17年	100.8	5.2	118.1	16.2	138.7	21.6	80.5	2.2	90.9	1.7	88.4	1.0	92.0	2.7	120.0	5.1
	平成18年	92.7	8.0	105.8	10.4	118.0	14.9	83.7	4.0	85.3	6.2	93.2	5.4	82.1	10.8	132.3	10.3
在 庫	平成14年	109.1	0.5	108.4	1.1	138.4	7.3	90.5	5.1	109.5	1.3	99.2	1.5	116.2	2.8	125.6	0.2
	平成15年	103.5	5.1	93.4	13.8	103.7	25.1	87.2	3.6	108.4	1.0	87.3	12.0	122.4	5.3	144.2	14.8
	平成16年	102.5	1.0	97.4	4.3	121.9	17.6	83.0	4.8	104.9	3.2	85.9	1.6	117.4	4.1	150.0	4.0
	平成17年	104.5	2.0	86.9	10.8	92.5	24.1	83.7	0.8	113.2	7.9	109.3	27.2	115.7	1.4	156.2	4.1
	平成18年	103.9	0.6	81.1	6.7	79.6	13.9	82.0	2.0	115.0	1.6	115.7	5.9	114.6	1.0	154.7	1.0

表47 最終需要財四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成16年				平成17年				平成18年			
生産	91.0	89.2	91.7	91.7	92.3	94.3	97.1	95.0	89.3	90.0	86.3	88.1
前期比(%)	0.4	2.0	2.8	0.0	0.7	2.2	3.0	2.2	6.0	0.8	4.1	2.1
出荷	95.6	94.0	96.3	96.7	98.2	100.1	104.2	101.4	94.2	93.7	90.8	91.8
前期比(%)	0.5	1.7	2.4	0.4	1.6	1.9	4.1	2.7	7.1	0.5	3.1	1.1
在庫	98.0	103.4	104.0	103.4	111.0	98.1	103.9	107.0	109.2	105.9	99.1	100.5
前期比(%)	3.2	5.5	0.6	0.6	7.4	11.6	5.9	3.0	2.1	3.0	6.4	1.4

図27 最終需要財年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)

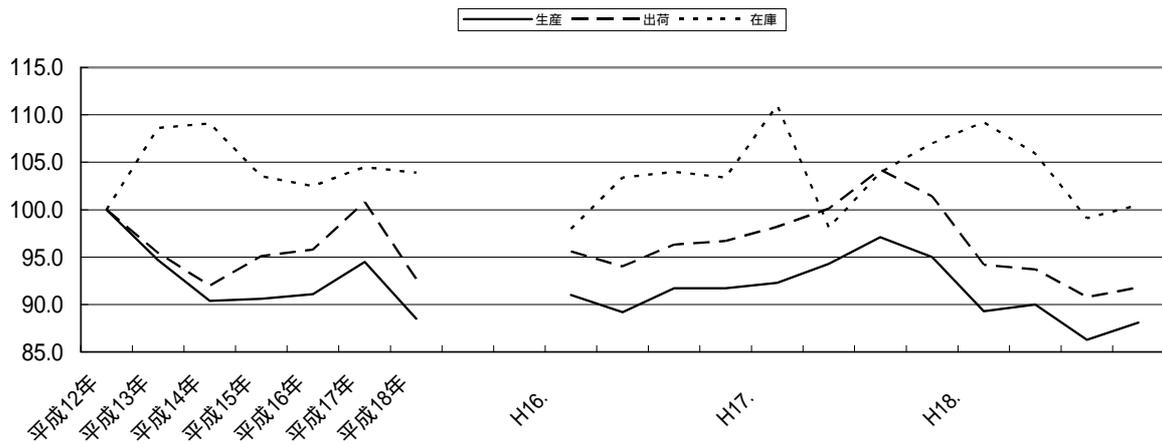
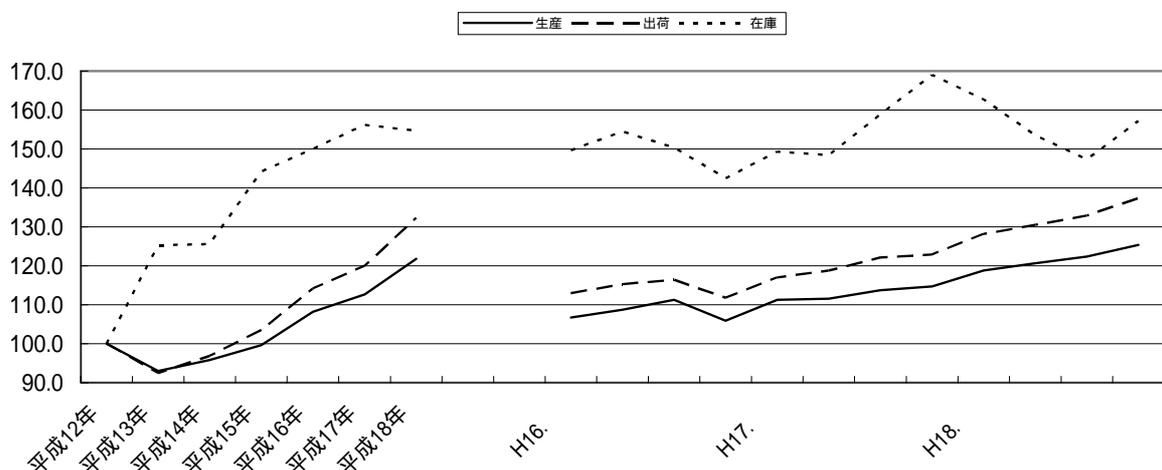


表48 生産財四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成16年				平成17年				平成18年			
生産	106.7	108.7	111.3	105.9	111.3	111.6	113.7	114.7	118.8	120.7	122.4	125.4
前期比(%)	4.8	1.9	2.4	4.9	5.1	0.3	1.9	0.9	3.6	1.6	1.4	2.5
出荷	113.0	115.3	116.4	111.8	117.0	118.8	122.2	122.9	128.2	130.5	132.9	137.4
前期比(%)	3.7	2.0	1.0	4.0	4.7	1.5	2.9	0.6	4.3	1.8	1.8	3.4
在庫	149.7	154.5	150.4	142.5	149.3	148.4	158.9	169.0	162.7	153.5	147.3	157.2
前期比(%)	4.9	3.2	2.7	5.3	4.8	0.6	7.1	6.4	3.7	5.7	4.0	6.7

図28 生産財年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



## イ 投資財

投資財の生産指数（原指数年平均）は101.6で前年比 6.6%、出荷指数は105.8で同 10.4%、在庫指数は81.1で同 6.7%とそれぞれ低下した（表46）

うち資本財の生産指数は116.2で前年比 11.2%、出荷指数は118.0で同 14.9%、在庫指数は79.6で同 13.9%それぞれ低下した。

建設財の生産指数は82.6で前年比 3.1%、出荷指数は83.7で同 4.0%それぞれ上昇し、在庫指数は82.0で同 2.0%低下した。

### < 四半期別推移（季節調整済指数） >

投資財の生産指数及び出荷指数は、平成18年 期で5期ぶりに低下し、 期に上昇した後、 期、 期に低下した。在庫指数は、平成17年 期から3期連続で低下し、平成18年 期、 期に上昇した（表49）

資本財の推移は表50、建設財の推移は表51のとおり。

表49 投資財四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成16年				平成17年				平成18年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	93.8	97.3	98.3	95.0	97.2	106.3	114.2	118.3	102.5	106.8	99.2	97.5
前期比(%)	0.8	3.7	1.0	3.4	2.3	9.4	7.4	3.6	13.4	4.2	7.1	1.7
出荷	99.7	103.1	103.1	100.4	104.0	114.4	127.1	128.2	108.4	110.7	103.4	100.0
前期比(%)	0.6	3.4	0.0	2.6	3.6	10.0	11.1	0.9	15.4	2.1	6.6	3.3
在庫	87.5	99.1	100.5	101.7	90.3	83.5	90.0	84.3	82.1	78.4	81.1	82.8
前期比(%)	3.2	13.3	1.4	1.2	11.2	7.5	7.8	6.3	2.6	4.5	3.4	2.1

図29 投資財年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)

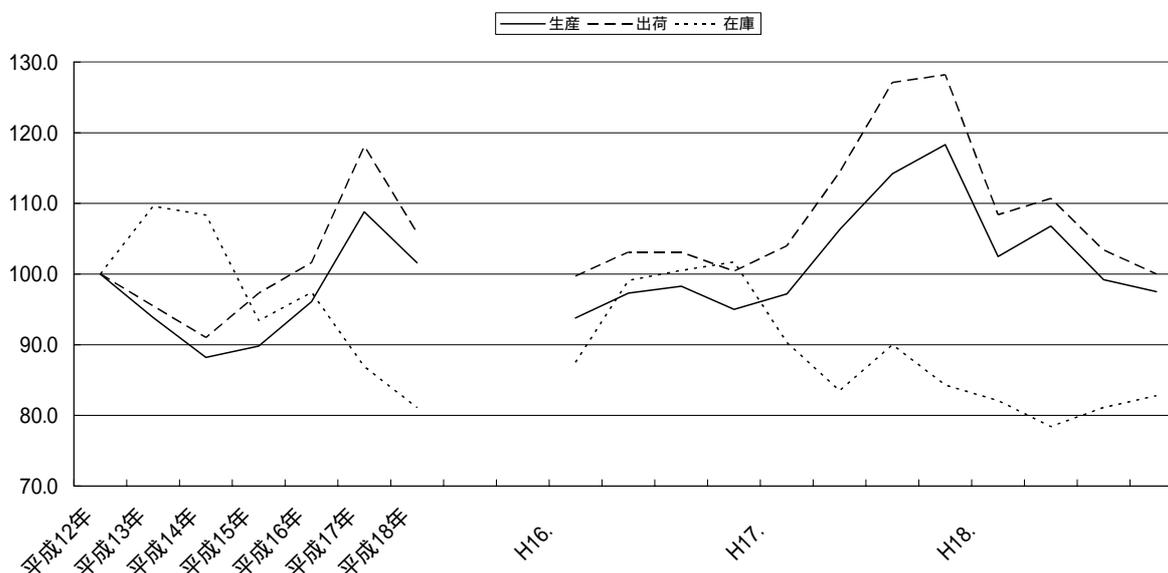


表50 資本財四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成16年				平成17年				平成18年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	105.2	111.1	112.1	108.9	113.6	126.5	139.1	146.3	121.0	118.6	113.1	111.4
前期比(%)	0.1	5.6	0.9	2.9	4.3	11.4	10.0	5.2	17.3	2.0	4.6	1.5
出荷	109.5	115.3	115.4	115.2	119.7	131.6	152.2	153.9	123.3	119.4	115.8	111.6
前期比(%)	3.7	5.3	0.1	0.2	3.9	9.9	15.7	1.1	19.9	3.2	3.0	3.6
在庫	103.6	127.3	120.8	137.6	98.5	84.5	98.0	88.3	81.4	79.9	80.7	76.2
前期比(%)	5.3	22.9	5.1	13.9	28.4	14.2	16.0	9.9	7.8	1.8	1.0	5.6

図30 資本財年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)

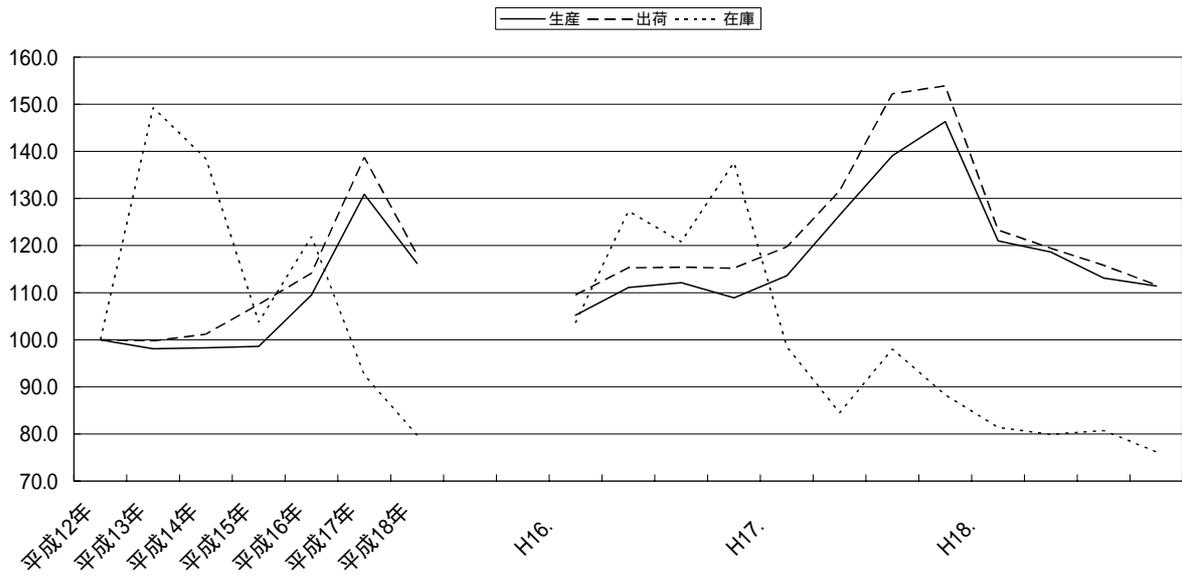
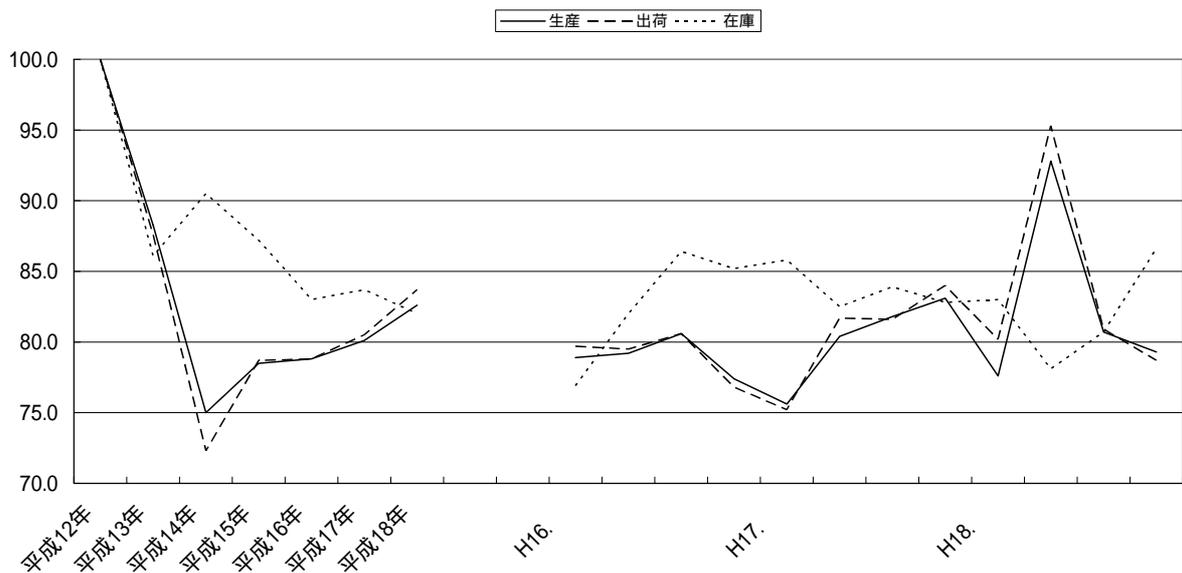


表51 建設財四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成16年				平成17年				平成18年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	78.9	79.2	80.6	77.4	75.6	80.4	81.8	83.1	77.6	92.8	80.7	79.3
前期比(%)	1.3	0.4	1.8	4.0	2.3	6.3	1.7	1.6	6.6	19.6	13.0	1.7
出荷	79.7	79.5	80.6	76.8	75.2	81.7	81.6	84.0	80.2	95.3	80.9	78.7
前期比(%)	1.8	0.3	1.4	4.7	2.1	8.6	0.1	2.9	4.5	18.8	15.1	2.7
在庫	76.9	82.0	86.4	85.2	85.8	82.5	83.9	82.8	83.0	78.1	80.7	86.6
前期比(%)	4.0	6.6	5.4	1.4	0.7	3.8	1.7	1.3	0.2	5.9	3.3	7.3

図31 建設財年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



## ウ 消費財

消費財の生産指数（原指数年平均）は81.7で前年比 6.3%、出荷指数は85.3で同6.2%それぞれ低下した。在庫指数は115.0で同1.6%上昇した（表46）

うち耐久消費財の生産指数は83.9で前年比3.8%、生産指数は93.2で同5.4%、在庫指数は115.7で同5.9%それぞれ上昇した。

非耐久消費財の生産指数は80.9で前年比 9.6%、出荷指数は82.1で同 10.8%、在庫指数は114.6で同 1.0%低下した。

### < 四半期別指数（季節調整済指数） >

消費財の生産指数は、平成17年 期から低下し、平成18年 期で6期ぶりに上昇し、 期に低下した後、 期に上昇した。出荷指数は、平成18年 期で4期ぶりに上昇し、 期、 期に低下した後、 期に上昇した。在庫指数は平成17年 期から3期連続で上昇し、平成18年 期、 期に低下した後、 期に上昇した（表52）

耐久消費財の推移は表53、非耐久消費財の推移は表54のとおり。

表52 消費財四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成16年				平成17年				平成18年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	88.1	85.9	88.1	90.8	89.5	88.9	87.2	84.0	81.5	82.0	79.4	83.8
前期比(%)	3.6	2.5	2.6	3.1	1.4	0.7	1.9	3.7	3.0	0.6	3.2	5.5
出荷	93.4	90.0	91.7	94.3	95.0	93.2	90.6	86.2	86.7	84.5	83.5	86.8
前期比(%)	0.6	3.6	1.9	2.8	0.7	1.9	2.8	4.9	0.6	2.5	1.2	4.0
在庫	103.6	106.6	104.7	103.9	121.1	105.5	112.2	116.0	121.6	120.4	107.8	108.7
前期比(%)	4.2	2.9	1.8	0.8	16.6	12.9	6.4	3.4	4.8	1.0	10.5	0.8

図32 消費財年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)

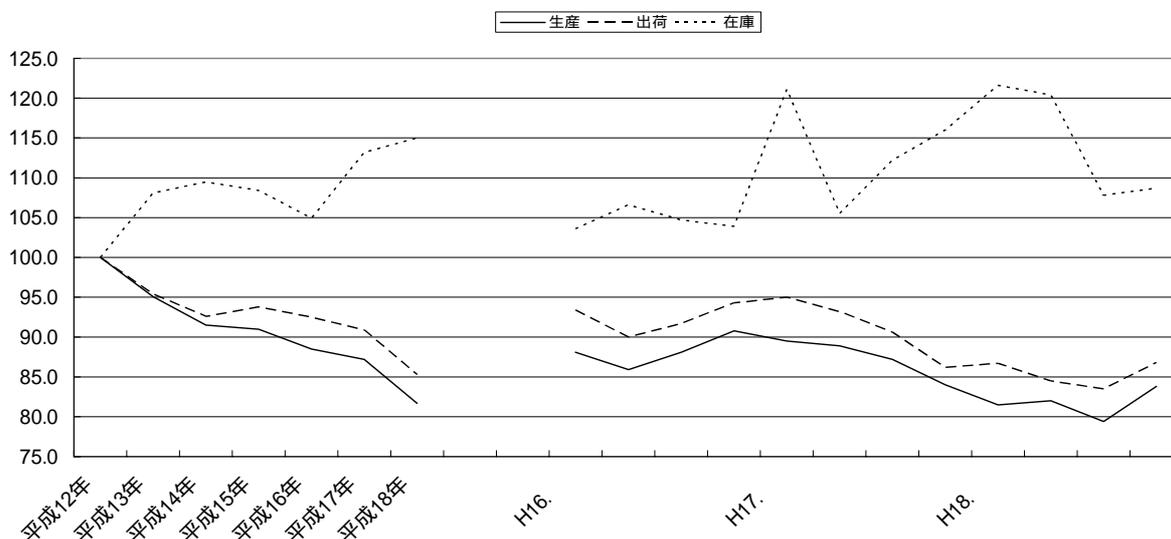


表53 耐久消費財四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成16年				平成17年				平成18年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	79.4	75.4	76.8	76.5	82.4	79.6	83.4	78.4	84.0	88.6	79.9	84.3
前期比(%)	0.6	5.0	1.9	0.4	7.7	3.4	4.8	6.0	7.1	5.5	9.8	5.5
出荷	88.4	84.2	87.1	89.2	90.4	85.5	92.8	85.5	93.7	94.0	94.3	91.2
前期比(%)	0.6	4.8	3.4	2.4	1.3	5.4	8.5	7.9	9.6	0.3	0.3	3.3
在庫	80.4	84.0	82.5	96.1	106.1	107.5	107.8	116.7	126.4	137.8	109.9	89.1
前期比(%)	6.2	4.5	1.8	16.5	10.4	1.3	0.3	8.3	8.3	9.0	20.2	18.9

図33 耐久消費財年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)

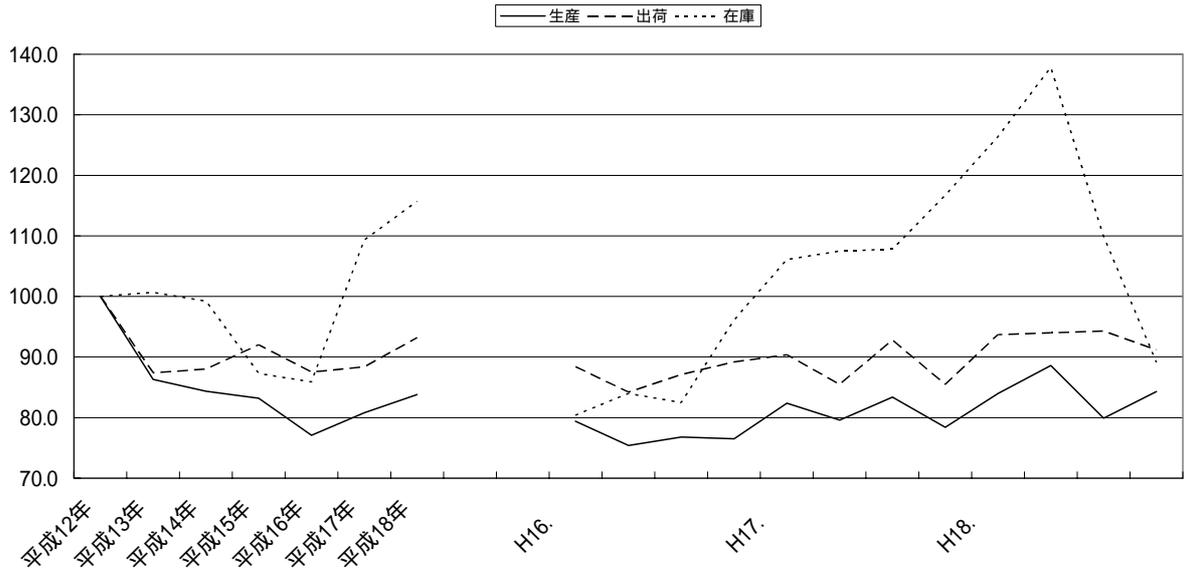
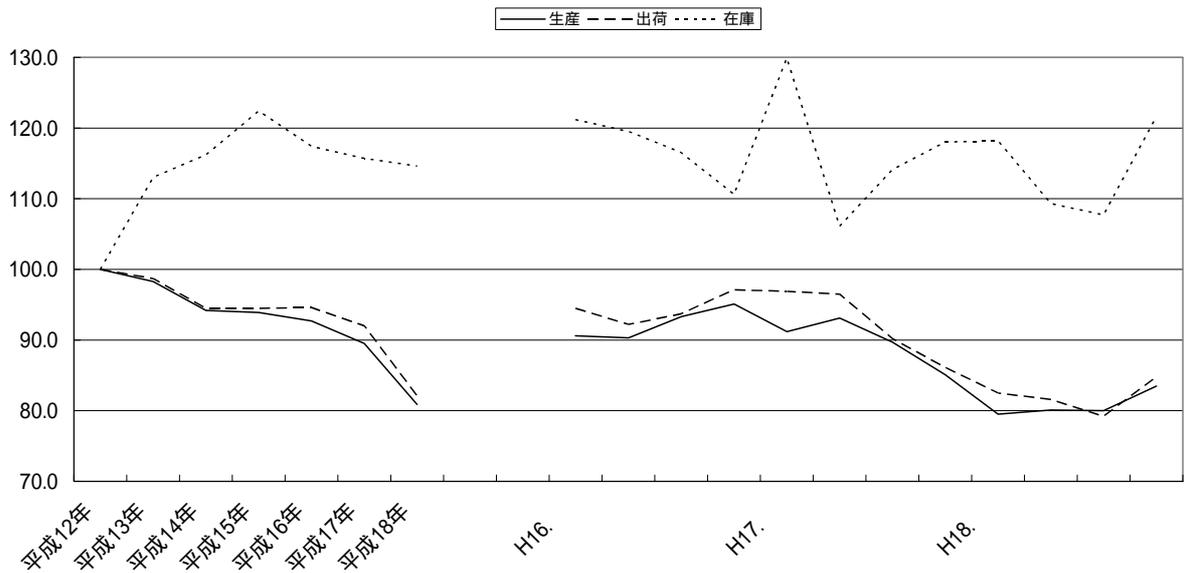


表54 非耐久消費財四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成16年				平成17年				平成18年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	90.6	90.3	93.3	95.1	91.2	93.1	89.7	85.1	79.5	80.1	80.0	83.5
前期比(%)	4.9	0.3	3.3	1.9	4.1	2.1	3.7	5.1	6.6	0.8	0.1	4.4
出荷	94.5	92.2	93.7	97.1	96.9	96.5	90.2	86.1	82.5	81.6	79.2	84.8
前期比(%)	0.0	2.4	1.6	3.6	0.2	0.4	6.5	4.5	4.2	1.1	2.9	7.1
在庫	121.2	119.5	116.5	110.6	129.9	106.1	114.1	118.0	118.2	109.3	107.7	121.6
前期比(%)	2.8	1.4	2.5	5.1	17.5	18.3	7.5	3.4	0.2	7.5	1.5	12.9

図34 非耐久消費財年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



## 2 電力・ガス事業の推移

平成18年の生産指数（原指数年平均）は、98.9で前年比16.4%上昇と3年連続で上昇した（表55）。

品目別にみると、電力は前年比16.5%上昇と3年連続で上昇し、ガスは同0.9%上昇と2年連続で上昇した。

< 四半期別指数（季節調整済指数） >

電力・ガス事業の生産指数は、平成18年 期、 期に低下した後、 期に上昇し、 期は横ばいとなった。（表56）。

表55 電力・ガス事業年別生産指数の推移（原指数 平成12年=100.0）

	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
電力・ガス事業	96.4	55.9	80.1	85.0	98.9
前年比(%)	0.4	42.0	43.3	6.1	16.4
電力	96.3	55.8	80.0	84.9	98.9
前年比(%)	0.3	42.1	43.4	6.1	16.5
ガス	99.1	99.6	97.9	99.6	100.5
前年比(%)	1.4	0.5	1.7	1.7	0.9

表56 電力・ガス事業四半期別生産指数の推移（季節調整済指数 平成12年=100.0）

	平成16年				平成17年				平成18年			
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
電力・ガス事業	75.3	90.3	77.1	77.2	72.4	80.4	90.9	97.5	97.3	95.0	102.2	102.2
前期比(%)	31.0	19.9	14.6	0.1	6.2	11.0	13.1	7.3	0.2	2.4	7.6	0.0
電力	75.1	90.3	77.1	77.2	72.3	80.4	90.8	97.5	97.4	94.3	102.1	103.6
前期比(%)	30.8	20.2	14.6	0.1	6.3	11.2	12.9	7.4	0.1	3.2	8.3	1.5
ガス	99.4	100.4	98.4	91.9	100.3	102.0	99.0	96.7	102.5	99.3	101.4	98.6
前期比(%)	2.8	1.0	2.0	6.6	9.1	1.7	2.9	2.3	6.0	3.1	2.1	2.8

図35 電力・ガス事業年別（原指数）・四半期別（季節調整済指数）生産指数の推移（平成12年=100.0）

